

Part 1 基本情報

1. ザンビアプロフィール

- (1) 正式名称 (和文) ザンビア
(英文) Republic of Zambia
- (2) 政体 共和制
- (3) 首都 ルサカ(Lusaka)
- (4) 面積 752.61千km²
- (5) 人口 1,294万人(2009年:世銀)
- (6) 民族 73部族(トンガ系、チェワ系、ベンバ系、ロジ系)
- (7) 言語 英語(公用語)、ベンバ語、ニャンジャ語、トンガ語
- (8) 宗教 8割近くはキリスト教、その他 イスラム教、ヒンドゥー教、伝統宗教
- (9) 略史 8～12世紀バンツー語系民族が北方から到来、先住のサン(ブッシュマン)を駆逐して農耕、牧畜を始める。
1851年 リビングストーン来訪。
1889年 イギリス南アフリカ会社の管轄下に入る
1891年 イギリスの保護領北ローデシアとなる
1925年 銅鉱脈発見を契機に欧州からの移民が急増
1953年 南ローデシア(現ジンバブエ)、ニアサランド(現マラウイ)とローデシア・ニアサランド連邦結成
1963年 連邦解体
1964年 独立(旧宗主国英国)、カウダ大統領就任
1973年 第二共和制(一党制施行)
1990年 第三共和制(複数政党制移行)
1991年 チルバ大統領就任(第2代大統領)
1996年 チルバ大統領再選
2002年 ムワナワサ大統領就任(第3代大統領)
2008年 ムワナワサ大統領逝去
2008年 バンダ大統領就任(第4代大統領)
2011年 サタ大統領就任(第5代大統領)
- (10) 在留日本人 284人(2011年9月)
- (11) 気候 熱帯性気候だが、国土の大部分が高地のためしのぎやすい。季節は5月～8月の「涼しい乾季」、9～11月の「暑い乾季」、12～4月の「暑い雨季」の3つに大別できる。雨季でも降雨後は晴天となり涼しくなることが多い。首都ルサカの年間平均気温は摂氏20.2度で、暑いとされる季節でも日陰はかなり涼しい。日差しは強い。

【参考】

「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省

2006 Data Book of The WORLD 二宮書店

2.業務のための基礎データ

(1)JICA事務所の概要(ザンビア事務所)

住所 :Plot No.11743A, Brentwood Lane, Longacres, Lusaka, ZAMBIA

郵便物宛先:P.O.Box 30027, Lusaka10101, ZAMBIA

連絡先 :国番号 :260

市外局番 :211(ルサカ)

2007年11月より地域番号が改定され、ルサカは1から211へ変更された。

電話 :(260-211) 254501

FAX :(260-211) 254935

緊急連絡先電話番号

- ・ 日本大使館 : 0211-251555/252036/252039 (FAX: 0211-253488)
- ・ 警察 : 999

URL :<http://www.jica.go.jp/zambia/index.html>

E-mail :zb_oso_rep@jica.go.jp

執務時間 :08:00 ~ 17:00 (Lunch Time 12:30 ~ 14:00)

休日 : 下記祝日と土曜日、日曜日

1月	3日	年始休暇
3月	8日	International Women's Day
4月	22日	Good Friday
4月	25日	Easter Monday
5月	2日	Substitute holiday for the Labour Day
5月	25日	Africa Freedom Day
6月	27日	State Funeral for Former President Chiluba
7月	4日	Heroes' Day
7月	5日	Unity Day
8月	1日	Farmer's Day
9月	20日	Election
10月	10日	体育の日
10月	24日	Independence Day
11月	3日	文化の日
12月	26日	Substitute holiday for the Christmas Day
12月	29日	Year End Holiday
12月	30日	Year End Holiday

(2011年)

事務所までの交通

【空港から】

タクシーで市内まで片道約12万ザンビア・クワチャ(約2,000円)。所要時間は約30分。タクシーには、Longacres(ロングエーカーズ)ラウンドアバウト(ロータリー)の近く、Ndeke House(ンデケ・ハウス:Ministry of Healthの入っている建物)の近く、Swedish Embassyの隣と告げる。

【空港以外から】

ルサカ空港以外の経路に関しては、「11.出入国手続き」参照。

(2) JICA事務所周辺地図

(JICAザンビア事務所HPも参照 <http://www.jica.go.jp/zambia/office/about/index.html>)



(3) 日本との時差、
サマータイム

日本との時差 :-7 時間

サマータイム : なし

(4) 祝日、官公庁

祝日 :

1月	1日	New Year's Day
3月	8日	International Women's Day
4月	22日	Good Friday
4月	25日	Easter Monday
5月	2日	Substitute holiday for the Labour Day
5月	25日	Africa Freedom Day
6月	27日	State Funeral for Former President Chiluba
7月	4日	Heroes' Day
7月	5日	Unity Day
8月	1日	Farmer's Day
9月	20日	Electon
10月	24日	Independence Day
12月	26日	Substitute holiday for the Christmas Day

(2011年)

官公庁の休日 : 上記祝日と土曜日、日曜日

(5) ビジネスアワー 官庁 : 8:30 ~ 17:00 (土日休み)

銀行 : 9:30 ~ 15:30 (土曜日は12:30まで)

商店 : 9:00 ~ 18:00 (日曜日は大半の店が午前中のみ営業)

ただし、Shoptite、Pick'n Pay、Sparといった大型店舗は日曜も終日営業。

Part 2 生活情報

「生活情報」は特に記載のない限りJICA事務所があるルサカの情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

日本人がよく利用するルサカのホテルは、下記のとおりである（詳細はPart3 イエローページを参照）。

ホテルによってはVISA、MasterCardなどの主要クレジットカードを利用できるが、一部でカード情報を特殊な機械で読み取り悪用するスキミングの被害が出ているので、利用する際は注意が必要。また、ホテルによってはクレジットカードの利用手数料がかかる。トラベラーズチェックは使用できない。（6-1金融機関（4）参照）支払い方法は、予約をする際にホテル側に確認すること。



- ・Taj Pamodzi Hotel(タジ・パモジ・ホテル)
- ・InterContinental Hotel Lusaka(インターコンチネンタル・ホテル)
- ・Southern Sun Ridgeway Lusaka(サウザン・サン・リッジウェイ・ルサカ)
- ・Chrismar Hotel(クリスマ・ホテル)
- ・Protea Hotel Lusaka(プロテア・ホテル・ルサカ)
- ・Longacres Lodge(ロングエーカーズ・ロッジ)
- ・Blue Crest Lodge(ブルークレスト・ロッジ)

1-2 住宅事情

住居の形式は独立家屋とフラットタイプがある。独立家屋は、広い敷地にベッドルーム3つ、リビング、ダイニング、キッチンという組み合わせが多い。Mulungushi Village Complex(以下を参照)のように一軒家が複数同じ敷地内にあるタイプと、家の周りをフェンスで囲った独立したタイプとがある。最近是新築の物件も増えている。

家賃は、独立家屋は2000～3000米ドル(月額)、フラットタイプは1000～2500米ドル程度(月額)と、外国人価格でかなり高め。キッチンはすべて電気で、ガスはない。

独立した一軒家に住む場合は、警備員の雇用が不可欠で、フラットタイプや集合住宅タイプの場合は、家主が警備員を雇用しているケースが多い。現地には警備会社が数社あり、昼夜にわたる警備員の配置、緊急時通報システム(パニックボタンシステム: 備え付けられたボタンを押すと警備会社につながり警備員が駆けつける)の設置などを行っている。

< Mulungushi Village Complex(ムルングシ・ビレッジ・コンプレックス) >

形態：独立家屋が集合したタイプ(約80軒)。

家賃：2400米ドル(月額)。

オーナー：ザンビア人が経営する半官半民の会社。



ムルングシ・ビレッジ・コンプレックス

部屋のタイプは4タイプほどあるが、平均的にベッドルームが4つ、バスルームが2つ、リビング、ダイニング、キッチンで構成されている。1軒あたりの庭が広いので畑をつくることもできる。Complexの敷地全体は、緑が多く広大なので散歩ができる。マネージメントオフィスは敷地内にあり、すぐに連絡可能。ゲートには警備員が常駐し、敷地内を定期的に巡回している。家具付き、家具なしの両タイプがあり、家具付きの場合は食器も揃っている。築20～30年で、修繕の必要な部分もある。修繕は家主に求めることができるが、対応に1～2カ月かかることが多い。また、敷地内にはホテルがあり、テニスコートやスカッシュコート、スイミングプール、レストランなどがある。

< Sunningdale Mews(サニングデール・ミューズ) >

形態：2階建ての一軒家が4軒毎に並んでいる集合住宅(計16軒)。

家賃：2400米ドル(月額)。

オーナー：中国人経営の民間不動産会社。

停電の少ない閑静な高級住宅地にあり、1階は広いリビング、キッチン、洗濯部屋、2階は3つのベッドルームで構成される。リビングに面した個別の庭もあり、庭は庭師が定期的に手入れしてくれる。家具付きと家具なしの両タイプがあり、家具付きでも住宅によって内容が異なる。1997年築。ゲート内外に警備員が常駐。敷地内にテニスコート、スイミングプール、来客用駐車場がある。電気・水道料金は家賃に含まれている。



サニングデール・ミューズ

1-3 住宅の探し方

在留日本人に住んでいる住宅の家主を紹介してもらうか、不動産会社に依頼する。利用される不動産会社は、次のとおりである。



- ・Homenet Hollywood
- ・ProMark
- ・Dez Rez Property Consultants
- ・Home Finers 2000 LTD.

1-4 住宅選定上の留意点

主な留意点は以下のとおりである。

< 壁が老朽化していないか、給排水がしっかりしているか >

外見は立派でも、乾季になると水が出ないところもある。ルサカを中心地は給水システムがあるが、borehole (井戸水) を利用している場所もある。その場合は停電や故障でポンプが止まり水の使用が出来なくなる場合がある。数日分の水が確保出来る給水タンクが設置されていると安心である。

< 家具付きかどうか >

テーブル、椅子、ソファ、冷凍冷蔵庫、カーテン、カーペットなどの家具付き物件も比較的多い。

< 網戸はあるか >

特に雨季は蚊やハエが多いので、ドアや窓に網戸があるかどうかを確認する。なお、修繕・補強工事などは家主に依頼できる。修繕が完了したことを確認してから契約し、入居するとよい。入居後も修繕は依頼できるが、対応に時間がかかることが多い。

< 安全対策 >

・敷地を囲む壁の高さ、エレクトリックフェンス、バークラバー等の安全対策がされているか。

ない場合は大家の負担で付けてもらうか、自分で付ける。

・ガードマンはいるか。

フラットタイプの場合はガードマンの有無を確認する。独立家屋の場合は自身で雇用することになる。

1-5 住宅の契約

契約書は通常家主が用意する。契約を終了する場合は60日前か90日前に通知しなければならない旨を契約書に記すことが多い。なお、家の補修についての責任関係(発注者、費用負担)や、解約の場合は何日前に家主に通知すればよいのか、家賃の記載などが間違っていないかどうかなどについて確認すること。

家賃の支払いは、ザンビアクワチャ払いと米ドル払いがある。外国人の場合は、米ドルで3カ月分前払いのケースが多い。半年あるいは1年分の前払いを請求された場合は、3カ月分の前払いに替えてもらうように家主と交渉する。日本のように敷金を請求されるケースもある。支払いは小切手、銀行振り込みなどで行う。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

電気はプリペイド方式が主流であるが、会社や地方ではメーターに基づいて請求書が届くところもある。プリペイド方式でない電気、水道、電話の請求書は1~2カ月遅れで自宅もしくは職場に届く。期日までに以下の各局で請求書の金額

を支払う。支払窓口の対応が遅く、受付を待つ人が長蛇の列になるので、土日の午前中などの人が多い時間帯は避けるほうが無難。

請求書の額には前の月に支払った金額が上乘せされていることもあるので、きちんと確認すること。支払った後のレシートは翌月まで保管しておくことを勧める。支払い額は、請求金額より多く支払うと、差額がデポジットされて翌月の請求額から差し引かれることになっている。電気や水道などは料金を滞納するとすぐに止められてしまうので、長期休暇の場合は1～2カ月分デポジットを入れておくとよい。

・電気(ZESCO LIMITED) :

Manda Hill Shopping Mall(マンダヒル・ショッピングモール)内の支所が便利。

・水道(Lusaka Water & Sewerage Company Ltd.) :

Head Office(Katemo Road, Off Addis Ababa)が便利。

・電話(ZAMTEL: Zambia Telecommunications Company Ltd.) :

Romaなどで支払い可能。

ゴミの処理方法については家主に確認すること。市の清掃車が、週に1度回収に来る地域もある(有料)。車両が不足しているため、定期的に回収に来ないこともある。生ゴミは、畑や空き地などに埋める方法もある。下水道設備は、都市部住宅街では整備されている。

1-7 家電

(1) 電圧

電圧は220～240V、周波数が50Hz。停電が多く電圧が不安定なため、サージプロテクターを取り付けたほうがよい。特にパソコンには、電圧安定装置や無停電電源装置を取り付けることを勧める。

日本国内向け製品(100V仕様)を使用するには、変圧器(トランスフォーマー)が必要。現地では売っているが品質に不安があり、日本から持参するか、現地で日本人から譲ってもらうほうが無難。特に日本製のアイロン、炊飯器、ホットプレートなどのワット数の大きな電気製品を使う時には、大容量(1,000W-1,500W)対応の変圧器が必要である。パソコンやドライヤーなど、100V 240Vで使用可能と記載されているものには変圧器は不要。

(2) コンセント、モジュージャックの形

プラグは次の2種類がある。

・英国式角ピン3本(BFタイプ、当地でアダプターの購入可能)

大半の電気製品は同プラグ形状で、直接コンセントへの差し込みが可能。

・南アフリカ式丸ピン3本(Bタイプ、当地でアダプターの購入可能)

当地で売っている電気製品は南アフリカからの輸入品が多く、アダプターが必要な場合がある。

電話のモジュージャックは、日本規格と同様のものと、イギリス規格のもの

とがあり、住宅によって異なる。インターネットを利用する場合は、サージプロテクターを日本から持参することを勧める。

(3) 家電製品

機能、メーカーは限定されるが、ルサカ市内で大半の家電製品や家財道具が購入できる。最近では日本製のものも増えている。ただし輸入品のため、値段は日本より少し高め。

現地で買える家電製品は、テレビ、ラジオ、ビデオ、DVDデッキ、CDコンボ、ラジオカセット、スピーカー、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、掃除機、ヒーター、扇風機、コーヒーメーカー、ミキサー、ドライヤー、ホットプレート、フードプロセッサー、電気ポット、炊飯器(高機能ではない)など。

現地で購入できないものは、ホットカーペットなど。

1-8 家具保険

家屋・家具保険を取り扱っている保険会社があるが、補償額や掛金の額、保険がおりるまでにかかる時間などを考えると、日本でも入っておくほうが無難である。

家具保険を取り扱う保険会社は次のとおり。



- ・Madison Insurance Company Zambia Ltd.
- ・Zambia State Insurance Corporation
- ・Nico Insurance

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1) 一般事情

ザンビアは国土の大半が海拔900～1500mの高原で内陸国であるため、昼夜の気温差が大きい。4～10月が乾季、11～3月が雨季で、特に6～8月は長袖のセーターやフリース、カーディガン、ベストなどの初冬に着るものが必要である。

ザンビアの人は形式にこだわるため、オフィスでは暑い時でも男性はスーツ、ネクタイを着用している。雨季や乾季の前後は夏物や合服、6～8月には秋物かベストがあると便利である。

ザンビアの女性はふつう素足のままパンプスをはいている。現地でも合成皮革のパンプスであれば多くの種類が出回っている。

夕刻から早朝にかけての屋外やサファリ観光時には、マラリア予防や、ほこりやツェツェバエから身を守るために、暑い時期でも長袖、長ズボンを着用したほうがよい。また、日中は日差しが強いので、日よけの帽子が必需品である。サングラスもあれば便利である。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

< 男性用 >

靴下、下着は現地でも購入できるが、日本から持ってきたほうが無難。現地で売っているスーツ、ワイシャツのデザインや質はかなり限られる。

< 女性用 >

半袖のワンピース、ブラウスなどの夏物衣料や、長袖のワンピース、ジャケットなどの秋物衣料、カーディガン、セーター、ジーンズまたは綿パンなどの長ズボン、下着、靴下、ストッキング類。

< 子供用、乳幼児用 >

ルサカ市内には何軒か子供服の専門店があるが、日本人にぴったりのサイズの服は見つけにくい。特に靴などは、子供の成長を考えたサイズを揃えて日本から持参するとよい。下着も多数持参する。子供服は洗濯の頻度が多く傷みが激しいので、十分な枚数を持参することを勧める。また、学齡児はプール学習があるので水着が必要である。

< その他 >

スポーツ(ゴルフ、テニスなど)をする人は、ウエアを持参する。ホテルのプールや観光で海に出かける時のために、水着の持参も勧める。

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

現地で手に入る衣料は大半が南アフリカ共和国からの輸入品である。Mandahill・Shopping Mall内にはWoolworthがあり、品揃えは豊富とはいえないがシャツ、スーツ、下着、靴下などが購入できる。Mandahill・Shopping MallやArcades(アーケイド)では革靴やスニーカーの販売店もある。現地でも最近では衣料品を扱う店が増えてきたが、一般に割高で日本人の体型や好みに合う服を見つけるのは難しい。

ザンビアでは一般的にSalaula(サラウラ)と呼ばれる古着市があり、ヨーロッパなどから持ち込まれた古着が廉価で売られている。なかには新品同様のものもあり、十分に使用に耐える服が買えるが、買い物際にはスリなどに十分に気をつけること。

ザンビアの伝統的な布であるChitenge(チテンゲ)を買って、男性用のシャツや女性用のドレスを仕立てるのもよい。

(4) その他の留意点

洗濯した衣類を外に干すとプチフライ(肉バエ)が卵を産みつけることがある。そのまま着用すると、人の皮膚のなかに幼虫が入り込みとても痛い思いをすることになる。それを避けるためには、外に干した衣類は下着類を含めて必ずアイロンをかけ、卵を焼き殺す必要がある。

2-2 礼装

(1) パーティー

男性はスーツ、女性は改まったスーツかワンピース、またはブラウスとスカート

を着用する。ザンビアでは春・秋物を年間通して着用することができる。

ホテルは冷房が効きすぎていることが多いため、半袖、長袖の両方を揃えておくといよい。

(2) 式典

年末に天皇誕生日を祝って各国大使館、日本人関係者を日本大使公邸に招いて行われるレセプションなどがある。男性はスーツ、女性はスーツ、ワンピース、あるいはチテンゲドレスを着用する。

(3) 冠婚葬祭

職場の同僚の結婚式に招待されたりすることがある。その時は手土産を持参する。

礼服正装は特に必要ない。和服も必ずしも持参する必要はないが、式典などで着用すると現地の人に喜ばれる。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

洗濯機はあると便利であるが、使用人に任せる場合は手洗いをしてくれるので、なくてもよい。洗剤は現地で購入できる。また、洗濯機、乾燥機も輸入品が購入できる。アイロンはプチフライ防止のために必需品である。

ルサカでは、以下のホテルや数軒のクリーニング店でドライクリーニングを依頼できる。ただし、上等な品物や、絹・革製品のクリーニングを任せるには技術的に多少不安があるので、日本から持参する衣料はなるべく自宅で洗濯できるものにしたほうが無難である。最近日本で市販されているホーム・クリーニング用の洗剤を持参するのよい。

なお、現地の水道水は水質がよくないため、洗濯を何度かしているうちに布地の色が多少くすんでくる。日本人が利用している主なクリーニングは、Taj Pamodzi Hotel(パモジ・ホテル)やInterContinental Hotel Lusaka(インターコンチネンタル・ホテル)内の取り扱いや、クリーニング店Classique Cleanersがある。ホテルの場合は、フロントでクリーニングスタッフを呼び出す。

(2) 仕立て、修繕

民族衣装風のドレスなどを仕立てて、ふだん着として着用するのよい。チテンゲ(現地の女性の巻きスカート)用の布地はどこでも売られており、仕立屋はオープンマーケットか市内の路上でミシンを踏んでいる。縫製は若干雑である。

子供服などを自分で縫う場合は、種類は限られるが最低限のボタン、ファスナーなどの材料は現地で揃えられる。型紙は持参すること。布地をメートル売りしている店もある。

(3) 保管

雨季は湿度が高いが、使用後の手入れを怠らなければ、服にカビが生える心配はほとんどない。セーターやウールのスーツなどは、防虫対策が必要である。日本から「ナフタリン」などを持参したほうがよい。

2-4 美容院、理髪店

Taj Pamodzi Hotel(パモジ・ホテル)やInterContinental Hotel Lusaka(インターコンチネンタル・ホテル)内に美容室があるほか、市内にも多くの美容室がある。現地の人との髪質の違いなどから、日本人の要望にはあまり応えられない。

家庭で散髪する人は、ヘアカーラー、家庭用理髪セット、バリカン、はさみ、くしなどの必要なものはすべて日本から持参すること。子供は家庭で散髪することを勧める。

主な美容室は次のとおりである。

- ・Face Fact
- ・Salon la Chic Intercon.
- ・Salon Namel
- ・Scruples Salon
- ・Jagines Hair Salon
- ・Shampayne
- ・Avocado

3. チップ



3-1 チップ事情

(1) 習慣の有無

チップの習慣は特にないが、高級レストランなどで料金にサービス料が含まれていない場合は、レシートの「Gratuity」という欄にチップの金額を記入して、その金額を渡す。

(2) 各種サービスに対するチップ

ホテルのポーターには2000～3000ザンビアクワチャを支払うとよい。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

外国人向けのレストランとして、中国料理、韓国料理、インド料理、イタリア料理などがある。日本食レストランはない。マンダヒル、アーケイド等のショッピングセンターにはファストフードの店もある。中国料理の店のなかには食材を販売している店もある。また、昼は現地食であるシマを出すレストランもある。

(2) 飲食店

現地の詳しいレストラン情報は、毎月発売される情報誌『Lowdown』を利用すると良い。

4-2 食料

(1) 一般事情

ザンビアの人の主食は、ミルミル(Mealy meal)というメイズ(トウモロコシ)を粉

にしたものである。これに水を加え、加熱しながら練った食べ物がシマ(Nshima)である。野菜や肉をトマト、玉ネギと油で炒め煮たおかず少量と、シマを一口大に丸めたものを食べるのが一般的な現地の人の食事である。

現地では肉、野菜、魚(淡水魚・海水魚)が入手でき、洋食を基本とした食生活であれば特に問題なく過ごせる。日本食を調理する場合、納豆などの材料は現地の農産物を利用すればよいが、調味料などは日本から持参する必要がある。

ザンビアでは、南アフリカ共和国との経済関係が深まるにつれ、生活物資の輸入が増え、最近では食料品もかなり充実している。東南アジア産の食材や調味料なども入荷されている。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

現地米のほかにマラウイ、中国、パキスタン、タイなどからの輸入米であるインディカ米が出回っている。寿司用の日本米も少量売られているが、日本に比べて値段がかなり高めである。必要に応じてもち米や真空パックのもちなどを持参しておく、祝い事の時などに重宝する。

<パン>

ほとんどのスーパーマーケットで入手可能。最近では焼きたてのおいしいパンを売る店が増えている。

<肉類>

牛肉と鶏肉が主であるが豚肉も手に入る。特定の店では薄切り肉が入手できる。鶏肉は内臓を取った1羽丸ごとが売られているほか、胸、もも、手羽(骨つき)などの各部位ごとにパックに入れて売られているものもある。牛肉と豚肉については挽き肉もあり、鶏挽き肉も時々スーパーで販売されている。正式な肉屋では、Meat Inspector(ミート・インスペクター)によって検査された肉が売られている。

ワニ、ウサギ、カモ、マトン、ラムなどの肉も時々売られている。ソーセージ、ハム、ベーコンはザンビア国内産、輸入品ともに豊富に出回っている。

<野菜>

野菜の種類は日常の調理に不自由しないだけのものが現地でも出回っている。タマネギ、ジャガイモ、トマト、レイブ(カラシ菜)などは、一年を通して入手可能である。ニンジン、ピーマン、キャベツも入手可能。キュウリ、オクラ、大根、カブ、サツマイモ、カボチャ、レタス、西洋ホウレンソウ、白菜、チンゲン菜、モヤシ、アスパラガス、クレソン、マッシュルーム、ブロッコリー、カリフラワー、サヤインゲン、キヌサヤ、グリーンピース、ナス、アボカドなどもルサカ市内のスーパーではほぼ一年中手に入る。ただし、日本のものより大味であることが多い。

6~8月にかけてはUsala(ウサラ)と呼ばれる自然芋(じねんじょ)がオープンマーケットで出回る。味は日本のトロロイモに近く、すりおろして食べると美味である。また、雨季には、ジャンボマッシュルームと呼ばれる人頭大のキノコをはじめ各種のキノコが入手可能で、鍋物などにして食べるとおいしい。

<乳製品>

牛乳は2リットル、1リットル、500ミリリットルの透明パックに入ったものが売られているが日本のものに比べて日持ちがしない。ロングライフ・パックもある。バター、マーガリン、ヨーグルト、チーズはザンビア産、輸入品ともに容易に手に入る。生クリームも売られている。

< 果物 >

季節によってオレンジ、マンゴー、グアバ、パイナップル、バナナ、スイカ、レモン、メロン、パパイヤ、イチゴなどが出回り、一年中果物が手に入る。

輸入物ではリンゴ、グレープフルーツ、ブドウ、モモ、キウイ、洋梨、ミカンなどがある。

< 魚類 >

内陸国なので出回っている魚は淡水魚が中心であるが、最近では輸入冷凍物の海水魚も見かけられるようになった。カペンタというガニエカ湖やカリバ湖産の淡水のイワシが冷凍や干物にして売られており、シマ料理によく使われる。

ブリーム(テラピア)、ナイルパーチなどは常に入手でき、煮たり焼いたりするほか、揚げ物にしてもよい。輸入冷凍物では南アフリカ共和国産のサケ、タンザニアかモザンビーク産のロブスター、エビ、イカ、タコが手に入るほか、イワシ、アジ、マグロ、ヘーク(タラ)、マス、薫製のタラコ、ムール貝などが売られている。また、カキが手に入ることもある。半分調理済みの加工食品やシーフードミックスなどもある。

< 調味料、食用油 >

ザンビアにはインド系や中国系の人が多く住んでおり、各種の香辛料のほかに、台湾、香港製の中国料理の調味料が入手できる。砂糖と塩、食用油の入手については現在問題ない。オリーブオイルも種類が豊富にある。ゴマ油、しょうゆ、みりん風、酢、味噌なども入手できる。

その他の一般的な洋風調味料は、多少値段は高いが使いやすい瓶入りのものが各種ある。マヨネーズ、バーベキューソース、ドレッシングなどは輸入品の種類が豊富であるが、マヨネーズ、バーベキューソースは日本のものとは味がまったく異なる。

< 酒類 >

ビール(「Mosi」「Castel」など)、ジン、ウオッカなど、ザンビア産のものがある。また輸入ビール、ワイン、洋酒も種類が豊富である。清酒の入手は難しい。

< コーヒー、紅茶 >

現地でも豆と粉状に軋いたものが販売されている。軋いたものは日本で一般的に販売されているものより軋きが細かい。ザンビア産、輸入品共に種類は豊富にある。インスタントコーヒーもある。

紅茶はザンビア産、南アフリカ産のルイボスティや輸入品のイングリッシュティが売られている。

< 清涼飲料水 >

「ファンタ」「コカ・コーラ」や同様のザンビア産の清涼飲料水がある。ソーダウォ

ーター、トニックウォーター、レモネード、ジンジャーエールなどもある。ジュースは、濃縮タイプや100%果汁のロングライフ・パックもある。

<加工食品>

魚、豆類、コンビーフなどの缶詰のほか、フルーツ、カレー、スパゲティソース、スープ、ツナ缶や半調理済みの冷凍食品なども売られている。スパゲティは多くの店で売られており、中国、台湾製などのインスタントラーメンやそうめんやきし麺に似た麺類も売られている。そば、うどんなどの乾麺類やラーメンなどは入手できないので、日本から持参するとよい。

<菓子類>

ザンビア産、輸入物のビスケット、キャンディ、チョコレート、チップスなどが出回っているが、先進国産のものは価格が高めである。市内のパン屋、ハンバーガーショップにはケーキを置いているところもあるが、味はかなり甘め。日本人家庭ではケーキなどのお菓子やデザートを自分でつくることが多い。

<飲料水>

都市部は水道水であるが、井戸水利用のところもある。水道水は石灰分が多いので沸騰させて冷まし、石灰のかすをよく沈殿させてから、コーヒー用のフィルターを通して使用するとよい。衛生上は、濾過はしなくてもよいが、5分程度沸騰させてから飲用に供するのが鉄則である。ミネラルウォーターは容易に手に入る。

(3)食料の入手

都市部には多くのスーパーマーケットがある。マンダヒルのSHOPRITEやアーケーズのSPARは、タウンにあるスーパーマーケットより外国人が住む地域から距離が近く、警備員が配置されていて比較的安全に買い物ができるため、外国人が頻繁に利用している。

オープンマーケット(青空市場)もある。ノースミード(Northmead)地区のオープンマーケットは、スーパーマーケットと隣接していて野菜の鮮度がよい。

ショーグラウンド(Showground)内のガーデンショップ(火水金土の午前中のみ営業)では、新鮮な野菜が種類も豊富な上に安価で売られている。中心地からは少し離れるが、マケニ(Makeni)地区には毎日オープンしているファーマーズマーケット(Farmers Market)があり、サラダで食べることの出来る鮮度の良い野菜やキッシュ、ジャムなどの自家製食品が購入できる。

現地では食料の流通もよくなってきているが、非常時に備えて日持ちのするものをある程度買い置きしておくといよい。一般的に市内の商店の営業時間は月～金曜日が8:00～18:00、土曜日は8:00～12:30(一部は夕方まで営業している)である。以前は日曜日に営業する店はほとんどなかったが、最近では開店しているところが増えている。

日本人がよく利用するスーパーマーケットは次のとおりである。

- ・SHOPRITE
- ・SUPER SPAR Arcades

- ・Pick n Pay Woodlands
- ・Melissa Kabulonga
- ・Melissa North Mead (青年協力隊員連絡所近く)
- ・SHOPRITE Wholesales

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

家電商品の値段は日本と同じくらいか、やや高めである。コンロは通常住宅に備え付けられており、電気加熱でオープン付きのタイプが多い。なお、現地の熱源は中流以上の家庭では電気が利用されており、ガスは普及していない。

ガラスコップ、コーヒーカップ、洋皿、スプーンなどの洋食器は、デザイン・質共に良質なものが増えてきている。電気ポット、コンロ、冷蔵庫、冷凍庫、電子レンジ、大型冷凍庫、冷蔵庫も現地で調達できるが、輸入品のため日本で購入するものに比べて値段が割高である。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具

日本食に必要なものはすべて持参したほうがよい。はし、茶碗、お椀、油こし、おろし金、すり鉢、すりこぎ、包丁(魚をおろしたり、肉のかたまりをばらす必要がある。出刃またはそれに近いものがあると便利である)、砥石などは持参すること。

お菓子づくりの道具は、現地でも基本的なものは揃う。

ざる、ボール、やかん(大きめのものがあると便利)、フライパン(テフロン加工のもの)、圧力鍋、無水鍋などは現地でも購入できるが、使い慣れたものがよいという人は持参すること。

入手できないことを想定し、最低限のものは持参したほうが生活は楽である。現地でも購入できるが、ホットプレートがあると焼き肉、お好み焼きなどができて重宝する。現地では日本の協力で七輪(Zico)が生産されているため、たこ焼き用の鉄板を持参すれば七輪を使ってたこ焼きを楽しむこともできる。

5. 生活用品の購入



Yellow Page

5-1 家電製品

機能、メーカーさえ問わなければ(最近、現地では日本の家電製品も増えている)ルサカ市内でほとんどの家財道具やテレビ、ビデオ、ステレオ、ラジオカセット、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機などの輸入家電製品が購入できる。日本人がよく利用する家電製品店にはgame(詳細はPart3 イエローページを参照)がある。なお、家電製品の修理はAudio Visual Unit、Ministry of Science Technology and Vocational Trainingで可能。

5-2 家具

前述のgameで取り扱っている。現地の大工に注文して作らせることも可能である。

5-3 日用品、雑貨

日用雑貨は前述のgameで取り扱っている。

シャンプー、リンス類は販売されているが、日本ほど種類は多くなく、輸入製品の価格は高めである。蚊取マットや蚊取線香も現地で購入可能である。

5-4 工具、素材

工具や素材などもgameで取り扱っている。町のマーケットでも購入できる。

6. 金融機関



6-1 金融機関

(1) 銀行

口座開設にあたっては、公的身分証明書の写しなどが必要であるため、赴任後若干時間がかかる。外国為替交換サービスで取り扱い可能な通貨は、米ドル、ユーロ、英ポンド、南アフリカランドなどで、日本円は換金できない。

年末、夏季休暇前などは、米ドル現金を入手しにくくなる場合もあるので、早めに銀行に出向いて準備することを勧める。日本人がよく利用している銀行は次のとおりである(詳細はPart3 イエローページを参照)。

- ・Standard Chartered銀行マンダヒル支店
- ・Standard Chartered銀行カブロンガ(Kabulonga)支店

なお、Standard Chartered銀行の小切手で自分用にドル現金を引き出す場合、一日5,000ドルが上限である。

(2) 口座の開設と閉鎖

赴任直後に車や家賃の前払い(3カ月分)や当座の生活資金などの多額なお金が必要になる。

赴任直後必要になる金額は、各人のライフスタイルにもよるが、家賃は2500米ドル×4カ月(敷金1ヶ月+3ヶ月前家賃)=10,000米ドルで、車購入費は5000~1万5000米ドルなど、計120~200万円程度(1ドル=80円)は必要になる。

なお、最近はStandard Chartered銀行口座のみを保有しているA関係者も増えている。ただし、リスクを軽減する意味で、ユニオンバンクなどの複数行に口座を持つ人もいる。

なお、銀行口座の閉鎖を行う場合は、帰国直前に文書で閉鎖の手続きをする必要がある

(3) 小切手

現地では、商慣習上、小切手が頻繁に利用されている。個人口座開設に伴い、手数料が若干かかるが、小切手発行を銀行に依頼すれば、通常数週間後には小切手帳を入手できる。大手銀行発行の小切手であれば、大半の店での支払いに利用できる。ただし、使用すればするほどサイン偽造などの危険性が増すため、多額の支払い以外は、現金での支払いを勧める。

Yellow Page

(4)換金方法

米ドル・ユーロ・英ポンド・南アフリカランドの現金が換金できる。日本円は換金できない。現金による換金が一般的で、1日に換金できる上限額は、US\$1,000まで。換金率は、高額紙幣(100\$,50\$)のほうが高めで有利。両替所(事務所近くのLongacres Lodge、Mandahill Shopping Center内Bureau de change等)、銀行、ホテル(Intercontinental Hotel 宿泊客のみ)等で換金できる。両替所、銀行の周囲では、強盗あるいはひったくりの被害に遭う可能性があるため、単独行動はできるだけ避け、また周辺の状況等に気を配るなど、注意が必要。また、闇両替を持ちかけてくるケースもあるが、違法であり、偽札を渡される等の被害に遭う可能性も高く、絶対に行わないこと。

トラベラーズチェックを使用できるところもある。

小額手持現金のためには、クレジットカードを使ったキャッシングという方法もある。(6 2クレジットカード参照)

6-2 クレジットカード

当地でも、レストランやスーパーマーケット等でクレジットカードを使える店は徐々に増えている。最近ではクレジットで支払いをするザンビア人も多くなってきている。利用可能なカードは、店舗によっても異なるが、VISA、MasterCardなど。ただし5つ星ホテルでもスキミング被害が発生しているため、注意が必要である。

街なかのATMでのキャッシングについては、VISA、VISA Electron、PLUSなどの利用が可能。キャッシングの1日の限度額などについては、利用しているクレジットカード会社に確認すること。利用の際は手数料が加算されることもある。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1)一般事情

< 航空 >

国内線および一部国際線としてZanbezi Airways(ザンベジエアウェイズ)、Pro Flight(プロフライト)が主要都市をつないでいる。

国内線・国際線の発着空港はルサカ、ンドラ(Ndola)、リビングストーン(Livingstone)の3カ所。国際線は、British Airways(ロンドン発着)、South African Airways(ヨハネスブルグ発着)、Ethiopia Airways(アジスアベバ発着)、Kenya Airways(ナイロビ発着)のほか、Ethiopian Air、Air Namibia、Air Botswana等の新規路線も頻繁に開通されているため、常にフライトスケジュールを確認する必要がある。アフリカの路線では当日のキャンセル、時間変更、オーバーブッキングなどのトラブルがしばしば起こるため、余裕を持って旅行日程を組む。

< 長距離バス >

民営の長距離バスが運行している。古い車両のバスが多く、部品の供給が困

難なこともあり、常に故障の危険がある。そのため時刻どおりには到着地に着かないことが多い。普通席、全席前売り指定など、グレードはいくつかあるが、最良のものでも乗り心地はよいとはいえない。

なお、郵便局が運行しているポストバスは、定時運行、完全前売り制である。一般商社員などは自家用車や飛行機などの手段をとることが多い。

< 市内バス >

主要都市では、ミニバスという乗り合いマイクロバスが市内を走っている。満員にならないと出発せず、途中の停留所では降りた人数しか乗せられない。車両の整備状況が悪く運行が不定期であるため、日本人はあまり利用していない。

< タクシー >

メーターがない車がほとんどなので、乗る前に必ず値段を交渉すること。正式なタクシーには、車体側面に登録ナンバーが書かれている。水色のタクシーが正式登録された車だが、別の色の車でも登録しているものもある。

呼び出しタクシーのDial A Cab(電話:0966-222222、0955-701377)は料金が少々高めだが、メーター付きなので安心して利用できる。ただし時間どおりに来ないこともあるので、時間の余裕を持って呼び出したほうがよい。

< 鉄道 >

コンゴ民主共和国からザンビアにかけてのコッパーベルト地区、ルサカ、リビングストーンを通り、ジンバブエに続く線(ザンビア鉄道。旅客はキトウェールサカ～リビングストーンのみ)と、カピリムポシからタンザニアのダルエスサラームまで続く線(タンザン鉄道)がある。小さな駅はバスなどと接続していないことが多く、時間がかかる。日本人はあまり利用していない。

(2) 空港から市内への移動

国際空港からルサカの市内まで、タクシーの料金が12万ザンビアクワチャくらいを目安にするとよい。

(3) 自家用車を利用する場合

日本と同じ右ハンドル・左側通行であるが、運転に自信がない人は運転手を雇用することを勧める。特に子女を同伴しての赴任の場合は、通学の送り迎えが必要である。

一般に、路上を走行しているのは未整備車や高速で走る車が多い。車幅灯、ブレーキランプ、方向指示器が機能していない車も多く、なかには夜間前照灯なしで走る車もあるので非常に注意が必要である。運転マナーも日本に比べると劣る。

道路状況については、市街地と主要幹線道路は舗装されているが、施工が悪いため穴が空いている場合がある。街灯もごく限られた通りにしか設置されておらず、現地の人肌の色が黒いため、夜間走行中の歩行者には特に注意が必要である。

なお、故障停車中の車が急に目の前に現れたりするので、夜間の長距離運転は要注意である。カイロード(Cairo Road)などのタウン近辺の道路は信号も

なく混雑しており、昼休み前後と帰宅時間(17時～19時頃)は特に渋滞する。

(4) レンタカーなどを利用する場合

電話または、事務所に直接出向いて予約する。料金は、運転手付きで1日約100～160米ドルである。車のみのレンタルができるところもある。また、ホテルや旅行代理店でも紹介してくれる。

遠隔地へ旅行をする際には、運転手付きマイクロバスを借りることもできる。長距離で悪路に入る場合には、事前にその旨を伝えて手配を頼んでおかないと、整備のよくない車にあたって苦勞することがある。また、契約書類をよく読まないでガソリン代をはじめ、オイル交換代、運転手の宿泊費、超過勤務手当を支払わなければならないなど、後でトラブルの原因となるので、注意すること。

レンタカー会社は次のとおりである(詳細はPart3 イエローページを参照)。

- ・Limo Car Hire & Rental Zambia
- ・Juls Limited
- ・Taiwo Travel Car Hire & Tours
- ・Sepiso Car Rentals
- ・Tuma Car Rental
- ・Trust Car Hire Limited
- ・Voyagers/Imperial CarRental

(5) 地図

書店などでザンビア全土の地図やルサカ市街地図が入手できる。土地省(Ministry of Land)内にも地図販売店がある。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

事故が発生した場合は、怪我人の救出を第一にすること。ただし出血を伴う場合はHIV/AIDSなどへの感染に注意する必要がある。まず近くの病院に車で連れていく。続いて近くの警察署へ行き、すべての状況を報告し、証明してもらう。相手がいる場合は一緒に報告すること。警察のPolice Report(事故証明)がその後の保険の対応、相手への対応のすべての基礎となるので、きちんと対応しておくこと。

なお、事故の際は、日本大使館(電話:0211-251555)に連絡すれば、必要な支援が受けられる。

(2) 救急病院

ルサカではUTH(ザンビア大学附属教育病院)が24時間の対応をする。個人病院もあるが、手術などを伴う場合は、UTHに入院するが多い。ただし、設備の故障や医薬品が切れていて手術ができない状態のこともある。

(3) 車両の盗難、車上荒らし

不幸にして盗難に遭ったら、まずは警察の事故証明にすべてを書いてもらい、その後の各種再発行手続きの基本とすること。旅券、IDカード、トラベラーズチェ

ック、車両の番号なども忘れずに報告しておくこと。盗品が戻ってくることはまずないが、ときどき旅券などが拾得物として出てくることもある。

車上荒らしが多発しているため、車を駐車する時は現金の入ったバッグなどを車内に置いたままにしない。貴重品は必ず身につけておくこと。また、車両自体の盗難も続出しているため、アラームなどを取り付ける必要がある。市内では、車を止める場合は必ず1人を車中に待機させるなどの対策が必要である。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

ザンビアはイギリスの植民地であったため、車は左側通行である。また、交通法規もイギリスに準じている。交差点は主としてラウンドアバウト(ロータリー)方式である。

最近、主要都市では信号機が増加している。ただし、信号を守らないドライバーが多いため、十分な注意が必要である。

また、道路にはところどころに車のスピードを抑制するためのハンプと呼ばれる隆起が設けられているので、注意が必要である。

(2) 罰金、罰則

車に必ず備えておかなければならないのは、三角灯(故障時などに車体の後ろに置く)、道路使用税(Road Tax, Road Fitness)のステッカー、車の前後につける蛍光テープである。警察交通課の人員が不足しているため、取り締まりは路上でのチェック(上記の他にシートベルト、ライト、ウインカー、ブレーキランプ、タイヤなど)が主であるが、Great East Road、Los Angeles Boulevard付近では、スピード違反を取り締まっている。ミニバスは取り締まりのターゲットになりやすい。違反者には罰金が課せられる。

ナンバープレートも政府認定のものを付けること。

このほかに、警察によるポリスチェック(空港の入口などにもある)があるが、警察に呼び止められても停止しない場合は、犯罪者とみなされ発砲されることもあるので気をつけること。

7-4 車の修理

(1) 部品

ザンビアで走っている車の約9割は日本製であり、ルサカにはトヨタ、三菱、日産、ホンダ、いすゞ、スバル、スズキのディーラーがある。これらのディーラーのなかで部品が多く揃っているのは、トヨタと三菱、日産の順で、その他のディーラーの在庫量は少ない。

トヨタや三菱のディーラーは定期点検時に必要な部品やエンジン、足回りなどの部品も比較的多く揃っている。在庫がなく、緊急に部品の取り寄せが必要な場合も、トヨタ、三菱のディーラーでは日本から2週間くらいで取り寄せるサービスを行っている。ただしこの場合は、部品の値段はDHLなどを使用するため割高にな

り、日本の約2倍である。日本の知人に依頼して日本から送付してもらうのもよい。

ディーラー以外でも自動車部品店はたくさんあり、日本製の自動車用の部品（台湾製など）を扱っている。特にヘッドランプ、テールランプなどはかなりの在庫があり、安く買うことができる。

ディーラーや自動車部品店で販売している部品は、現地で販売している車両モデルのものである。エンジン部品などは仕様が異なり、古いモデルの部品が入手できない場合もある。中古車を日本から輸入する場合は、車体の程度がよく走行距離が少ないものであれば、タイヤ、バッテリー、エアフィルターなどを新品に替えることで任期中は問題なく使うことが可能である。また、ザンビアの国内仕様車はほとんどが燃料噴射を採用したエンジンのため、オイルフィルター、エアフィルター、フューエルフィルターなどは持参するほうがよい。自動車部品店ではアクセサリー、タイヤ、自動車工具なども品数を揃えている。

(2) 修理工場

ルサカにあるトヨタ、三菱などのディーラーの整備工場は、設備、工具なども整っていて年々整備技術が向上しているが、電子制御燃料噴射など、コンピューターで制御されている車の修理は難しい。点検整備、一般修理などは問題なくできる。板金塗装工場の技術は向上しており、仕上がりはよい。修理に関しては、車に詳しい日本人に相談して適切なアドバイスをもらうのも一案である。

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

一般加入電話よりも携帯電話が普及している。

(2) 携帯電話

携帯電話は緊急に連絡する場合の手段として便利である。ザンビアにはAirtel（局番：097）、MTN（096）、Zamtel（095）の3つの電話会社がある。SIMロックがかかった携帯電話機は使えない。携帯電話機と電話番号の記録されているSIMカードを購入するとすぐに使用できる。SIMカードにはpre-paid（後述のプリペイドカードを使うタイプ、5,000ザンビアクワチャ程度）とpost-paid（後で利用料金が請求されるタイプ、28万ザンビアクワチャ程度）とがある。ザンビアではpre-paidが一般的で、電話会社の看板のある店で5万ザンビアクワチャ、10万ザンビアクワチャなどのスクラッチカードを入手し、スクラッチして現れるナンバーを入力すると使用時間（talk time）が加算される。

現地での電話機の値段は、1台50～300米ドルと多様で、機種はNokia、Samsung、SonyEricsson、Motorolaである。

(3) 電話のかけ方

市外へ：市外局番：0211（ルサカ）

一般電話から携帯電話へ：携帯電話番号をそのままダイヤル

携帯電話から携帯電話へ：携帯電話番号をそのままダイヤル

携帯電話から一般電話へ：市外局番からダイヤル(0211-*****)
 国際電話(日本へ)：東京(市外局番:03)の場合、0081-3-****-****
 または+81-3-****-****
 国際電話(日本から)：ルサカの場合、+260-211-****

8-2 電信

(1) ファクシミリ

かなり普及している。主要ホテルのビジネスセンターからも発信できる。ただし雨季は回線の関係でつながりにくい。ファクシミリ送受信機は、市内のgameなどで購入できる。

(2) インターネット

最近、携帯電話会社が提供するインターネットサービスを利用するケースが多く、USBモデム(約20万ザンビアクワチャ)を使用する接続が可能である。3Gエリアはルサカのみであるが、地方都市周辺でも2Gでの接続が可能。

プロバイダーは複数あり、通信速度は4.8Kbps(ダイヤルアップ)～512Kbps(高速回線サービス)である。インターネットカフェはArcades及びManda hillショッピングモール内、Chrismar Hotel内等にある。

主なインターネットプロバイダーは次のとおりである(詳細はPart3 イエローページを参照)。



- ・Zamnet
- ・Zamtel
- ・Coppernet
- ・UUNet
- ・Microlink
- ・iconnect

8-3 郵便

(1) 一般事情

国内の郵便事情は一部地域を除いてよいとはいえない。北部や西部に出した郵便物が届くのに1カ月以上かかる。国内EMS(速達郵便)もあり、1～3日で先方の郵便局に届く。国際郵便は、ルサカから日本までは10日程度で着くが、地方都市からの場合は相当な日数がかかる。特にクリスマスシーズンには国内・国際郵便ともかなりの遅れが出る。

郵便料金は封書で国内が2,500ザンビアクワチャである。日本からの小包は航空便で約2、3週間から時には3ヶ月以上、船便は5ヶ月以上時には1年以上かかる。急ぎの場合には小分けしてSmall Packet(小型包装物)として送ったほうが早い。

郵便物発送の留意事項は日本とほぼ同じで、書籍、資料などの入手には問題ない。成人向けの本やビデオについては、日本より規制が厳しく、ページが切り

取られて送付されてくる。郵便局から郵便物の案内状が来るので、身分証明証を持って引き取りに行くことになる。その際、課税されることもある。

ザンビアの地方で小包を発送する場合は、税関へ持っていかなくても中身のチェックを受けてからでないといき受けてもらえない場合があるので、注意を要する。

(2) 課税

荷物は課税されることもある。特に食料品、電気製品の受け取りには高い税金が加算されることがある。

(3) 国際宅配サービス

ザンビアで利用できる主な国際宅配サービスは、以下とおりである。たいていのホテルで受付に依頼すると、宅配サービス会社に取り次いでもらえる。

 Yellow Page

- ・Mercury Couriers (UPS) Lusaka Office
- ・DHL
- ・FedEx

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の方法

OSはWindowsが主流で、取扱店は多くある。パソコンは東芝、Compaq、IBM、Dellなどに加え、Mecerなどの南アフリカ共和国製のものも入手できる。

プリンターはCANON、hpなどが主流。周辺機器も購入できるが、種類や在庫が限られ、日本で購入するより高額になるので、できるだけ日本で購入して携行することを勧める。ソフトは英語版で、日本語版は日本から携行するしかない。

日本人がよく利用するコンピューター機器販売店は前述のMandahill・Shopping Mall内のgameのほか、Computer Expressなどがある(詳細はイエローページを参照)。

 Yellow Page

(2) 使用の際の注意

電圧が不安定なため、スタビライザーが必要となる。コンセントの形状、電圧に関しては「1-7 家電」を参照。

(3) 修理

現地にはコンピューターのハード面の専門家がないので、修理はごく簡単なものを除いて不可能。修理が必要な場合は南アフリカ共和国に出す。消耗品の在庫は限られている。

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1) 就業時間

就業時間は8:00～17:00が一般的。昼休みは1時間～1時間30分。一般にザンビアの人は就業時間終了とともに帰宅する。

(2) 通勤事情

車の通勤が大半。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

国際空港としては規模が小さく、南アフリカ共和国からの国際線が1日に4便、ケニア、アジスアベバからの国際線が1日に1便発着している。ヨーロッパとの連絡は週に数便。出迎えコンタクトポイントは、税関(Custom)を出たところになる。

(2) 入国手続き書類

ザンビアに入国後、空港で取得した滞在ビザの有効期間が足りないというトラブルが何件か発生しているため、以下の点に注意すること。

空港には入国カード(Entry Declaration Form)が準備されている(機内で配布される場合もある)。以下の通り記載する。

・一般の方の場合

入国時、Visaの期限が、滞在期間内であることを確認すること。

入国後、滞在延長を希望する場合は、入国管理局にTemporary Permit(臨時滞在許可)を申請すれば、90日までの延長が可能。

在日ザンビア大使館(電話 :03-3491-0121 ~ 2、FAX 03-3491-0123)に照会の上、査証を取得することを勧める。滞在期間が30日以内であれば、50米ドルを空港の入国審査官に支払うことで観光ビザを取得できる。この際、出発空港や乗り継ぎ空港などのチェックインカウンターで査証について質問されるかもしれないが、現地で取得可能の旨を告げれば問題はない。また、入国後、滞在延長を希望する場合は、入国管理局にTemporary Permit(臨時滞在許可)を申請すれば、90日までの延長が可能。

(3) 入国審査

日本で発行されるDiplomatic Visaは3カ月有効なものだが、この期間はあくまでも入国が可能な期間であり、入国時は最長30日間の滞在ビザしか発行してもらえない。入国時には入国スタンプが押され、このスタンプが滞在ビザとなる。日本ではDiplomatic Visaのスタンプが押される。

入国スタンプには、滞在ビザの有効期限もイギリス式に、日/月/年の順に手書きで記入される。滞在ビザの有効期限は、次のとおりに確認する必要がある。

< ザンビア滞在期間が30日以内のJICA専門家、調査団など >

滞在ビザの有効期限が、出国予定日よりも後であるかどうかを必ず確認する。万が一ビザの有効期限が出国予定日よりも前の場合は、入国管理官に訂正を求めること。

< ザンビア滞在期間が31日以上のJICA専門家、ボランティア、調査団など >

滞在ビザの有効期限が、入国日の30日後であるかどうかを必ず確認する。万

が一ビザの有効期限が30日より短い場合は、最大30日間の滞在ビザが発行されるはずなので入国管理官に訂正を求めること。

(4) 税関検査

最近ルサカ空港での通関は厳しくなっている。段ボール箱は多くの場合チェックされる。

税関検査のために携行荷物の内容を申告する通関申請書を作成する。通関申請書には、

(ア) 持ち込む品名をYes / Noで記入する欄

(イ) 持ち込む品物の金額、数量を記入する欄

がある。

(ア)の欄では、新品の高価な貴重品以外はすべて「No」と記入する。また、(イ)の欄は空白または「Personal Effects」(個人財産)と記入する。これら申請書は税関職員によりチェックされ、サインあるいはスタンプが押される。場合によっては、荷物の内容検査が行われることもある。また、検査結果によって課税されることもある。

(5) 空港内での留意点

盗難などは少ないが、注意は必要。

(6) 出迎え

特別な場合を除き、運転手が名札をもって空港出口で待機している。

(7) 空港からの主な交通手段

エアポートバスなどは出ていないので、タクシー(12万ザンビアクワチャ程度)などを利用する。ホテルによっては有料の送迎サービスを行っているので前もって聞いておくと良い。

(8) その他の留意点

空港出口に銀行があり、100米ドル程度交換しておくチップ、タクシー代などとして使うのに便利である。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

出国管理官受付前に置いてある出国カードに必要事項を記入する。動物、植物を持ち出す場合には、事前に獣医局(ルサカ市内)で動物検疫証明書を、バルモラ農業試験場(市内から10km)で植物検疫証明書を入手する。

(2) リコンファーム

航空会社によってリコンファームの期限が異なるので、事前に確認しておくが良い。リコンファームが不要な場合も、フライト時間変更等も起こりえるので、念のため確認することをすすめる。

(3) チェックイン

チェックインタイムはフライト予定時刻の2時間前。市内から空港までの所要時間は30分程度である。出発ロビーは1つしかない。

(4) 空港利用税

IATAに加盟している航空会社(SA,BA等)はチケットに含まれているので不要。ザンベジエはUS\$30を支払う。国内線はUS\$11\$(又は相当ザンビアクワチャ額)を支払う。その後荷物のチェックとチェックインを行う。

< 出入国地点の制限 >

ザンビアは8カ国に囲まれた内陸国で、出入国を行える国境は数多くあるが、安全対策上、JICA関係者の出入国は当面の間、以下の地点に制限されている。

1) 空路による出入国:

- ・Lusaka International Airport
- ・Livingstone (リビングストーン) International Airport
- ・Ndola (ンドラ) International Airport
- ・Mfuwe (ムフエ) International Airport

2) 陸路による出入国:

- ・Chipata (チパタ)(マラウイからの出入国地点)
- ・Livingstone (リビングストーン)(ジンバブエからの入国地点)
- ・Chirundu (チルンドゥ)(ジンバブエからの入国地点)

2001年9月現在ジンバブエへの渡航は禁止

- ・Kazungula (カズングラ)(ボツワナからの出入国地点)
- ・Sesheke (セシェケ)(ナミビアからの出入国地点)

3) 鉄道による入国

- ・Nakonde (ナコンデ)(タンザニアからの入国地点)

< 出入国方法の制限 >

上記の出入国地点及び入国地点に限り、空路・陸路(自家用車・長距離バス)いずれかの出入国を可とする。ただし、夜間の長距離移動(市外に出る移動)は交通事故の危険性が高く、夜間の到着は防犯上危険であるため禁止とする。詳細は以下を参照。

1) マラウイから入国する場合(マラウイ在住のJICA関係者だけでなく、周辺国のJICA関係者がマラウイ渡航後、ザンビアに入国する場合を含む)

【ルサカへの出入国】

空路・陸路(ただし自家用車に限る)ともに可能。ただし、Lilongwe(リロングウェ)～ルサカ間直行の長距離バスで夜間の走行となる便は、利用不可。Lusaka International Airportからルサカ市内へは、以下の交通手段がある。

- ・ホテルの送迎バスを利用:

Taj Pamodzi Hotel、InterContinental Hotel、Southern Sun Hotelに宿泊する場合は、ホテルの送迎バスがある。空港の到着ロビーを出た車寄せに、ホテルの送迎バスが停車しているので、利用する。

- ・タクシーを利用:

到着ロビーを出たところに、数台のタクシーが客待ちをしている。白タクは使用

せず、正規のタクシーを使用すること。正規のタクシーは、水色の車台で、「LSK 000」とタクシーの登録番号が車体の側面に書かれており、ナンバープレートも白地のプレートに赤字でナンバーが書かれている。税関を出てきたところで、数人の客引きがタクシーに乗らないかと寄ってくるが、その場合も、正規のタクシーかどうかを確認する。空港から市内までの運賃は約12万ザンビアクワチャであるが、ガソリンの値上がりによりタクシー代は上昇傾向にある。Lusaka International Airportには両替所がある。

【チパタへの出入国】

陸路(自家用車、長距離バス)で入国できる。ただし、国境には正式な両替所がないため、お金はチパタで両替する必要がある。国境にいる両替屋は違法である。

タクシーでマラウイの出入国ゲートを抜け、ザンビア側の出入国ゲートまで行き、徒歩でザンビア側に入国し、国境からチパタまでタクシーで行くこともできるが、ザンビア国境にはタクシーが数台待っているものの、いわゆる白タクしかない日が多く、(チパタには正規のタクシーが非常に少ない)、タクシーによる国境通過は勧められない。

【ムフエへの出入国】

空路、陸路(自家用車のみ)ともに利用できる。

・空路による出入国

Mfuwe International Airportへは、リロングウェからの直行便が運行している。同空港にはタクシーはいないので、必ず事前に、宿泊するロッジに空港でのピックアップを予約しておく。

・陸路による出入国

リロングウェからムフエ間の陸路移動は、チパタを経由することになるが、チパタ～ムフエ間の約120kmは舗装されていない道であるため、空路での移動が望ましい。自家用車で移動する場合は、暗くならないうちにムフエに到着できるように朝早く出発し、運転には十分に気をつけること。

チパタ～ムフエ間の公共交通機関は、Canter(三菱の7トントラック「Canterを多く使用しているためこう呼ばれる」)しかない。Canterは、通常14 00ごろにチパタを出発し、17 00～19 00ごろにMfuweに着くが、Mfuwe発は20 00ごろ、チパタ着は23 00ごろ、場合によっては深夜となってしまう。したがって、交通安全とチパタ到着後の治安対策上、夜間のムフエ発チパタ行きのCanterは利用禁止とする。

2)ジンバブエから入国する場合(ジンバブエ在住のJICA関係者だけでなく、周辺国のJICA関係者がジンバブエ渡航後、ザンビアに入国する場合を含む)

当面の間、入国地点はリビングストーン及びChirundu(チルンドゥ)に限定する。しかしながら、2011年10月現在、ジンバブエへの渡航は禁止されている。

【リビングストーンへの出入国方法】

・空路による出入国

Livingstone International Airportへは、Harare(ハラレ)からの直行便が運行している。同空港からホテルへの移動は、正規のタクシー(ブルーの車体でナンバーは白地のプレートに赤字で書かれている)を使用するか、ホテルに空港ピックアップを事前に予約しておく。

・陸路による出入国

自家用車、長距離バスあるいはタクシーを利用した陸路による出入国は可能。ただし、国境には正式な両替所がないため、リビングストーン市内かホテルで両替する必要がある。国境にいる両替屋は違法である。

国境にはタクシーが数台待っているが、いわゆる白タクは使用せず、正規のタクシー(ブルーの車体でナンバーは白地のプレートに赤字で記載されている)を使用するようにすること。

3) ボツワナから出入国する場合(ボツワナ在住のJICA関係者だけでなく、周辺国のJICA関係者がボツワナ渡航後、ザンビアに入国する場合を含む)

自家用車あるいは長距離バスを利用したカズングラでの出入国が可能。ただし、国境には正式な両替所がないため、リビングストーン市内あるいはホテルで両替する。国境にいる両替屋は違法である。また、カズングラの国境には橋がないため、はしけでZambezi(ザンベジ)川を渡る。現在、はしけは一艘しかなく、川を渡るのにかなり待たされる。また、カズングラ～リビングストーン間は車で約40分かかるので、暗くなる前にリビングストーンに到着するように早めに出発すること。

4) ナミビアから出入国する場合(ナミビア在住のJICA関係者だけでなく、周辺国のJICA関係者がナミビア渡航後、ザンビアに入国する場合を含む)

当面の間、入国地点はセシェケに限定する。

5) タンザニアから入国する場合(タンザニア在住のJICA関係者だけでなく、周辺国のJICA関係者がタンザニア渡航後、ザンビアに入国する場合を含む)

タザラ鉄道を利用し、ザンビアに入国する場合、カピリムポシが終点となる。カピリムポシからルサカまでは約200Kmの距離があるため、夜間にカピリムポシからルサカへ移動することのないように、早めに出発すること。

6) その他の国からの出入国

その他の国からの出入国はLusaka International Airport、Livingstone International Airport、Ndola International Airport、Mfuwe International Airportとなる。

11-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

該当情報なし。

(2) 車の処分

在留日本人や後任に売却するほか、ザンビア人、外国人などの買い手を見つ

ける。特にザンビア人、外国人の場合には、後々問題がおこらないように契約書を作成しておくことをお勧めする。一般のザンビア人が中古車を輸入する場合は、通常85%の関税と17.5%のVAT(付加価値税)がかかる。

個人売買はアーケイドのSparやShopriteなどに貼り紙を掲示していることがよくある。また、中古車販売会社やオークション会社に売ることができる。

(3) 家財道具の処分

日本へ家財道具を送る場合は、DHL(海外宅配便)かAnacompanied Baggage(アナカン:航空別送荷物)で空送するのが一般的である。郵便(空送は1kgあたり16-18米ドルで約2週間から1ヶ月かかる。本のみであればPrinted matter扱いにすると4kgまでで約16米ドルで送付)を利用することもできる。

DHLで送る場合はJumbo Boxと呼ばれる所定の段ボール箱を使用するのが得策である。25kgまでなら約320万ザンビアクワチャで送付できる。1kgあたり26米ドル程度で、アナカンに比べ割高であるが、指定の住所へ宅配されるので便利である。

1kgあたりの単価はアナカンが一番安い(約5.3米ドル)が、空港まで引き取りに行く必要がある。ただし、下記の輸送会社(詳細はPart3 イエローページを参照)が、木箱梱包も有料で請け負ってくれるため、土産の木彫りなど、壊れ物をまとめて送るのに便利である。

・Flexi Freight Ltd.

・SDV Zambia Ltd

・Manika

郵便による空送は1kgあたり16-18米ドルで約2週間から1ヶ月かかる。本のみであればPrinted matter扱いにすると4kgまでで約16米ドルで送付できる。

(4) 住宅の明け渡し

家主への通知は通常3カ月前となっているところが多いが、1~2カ月前でよいところもある。任期終了前に契約書を確認しておくこと。

(5) 外貨持ち出し規制

現金の持ち出しは10,000米ドルまでで、それ以上は事前にZambia Revenue Authority(ZRA)へ申請をする必要がある。

12. 治安、 緊急時の心得

生命・財産に直結することでもあり、治安・安全情報に関しては、各自の責任において最新かつ正確な情報を入手してください。



12-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

ザンビア人は、性格が穏やかで、一般に争いごとを好まない傾向がある。他者への不快感を表立っては表さないため、突然訴えられることがあり、注意が必要である。

そのような国民性のため、1991年の初めての選挙以来、それぞれの選挙では大きな混乱もなく大統領が選出(再選)されている。現在まで、国軍は、特定の政党、個人に偏ることなく中立を保っている。

暴動、クーデターまでに拡大はしていないが、北部の鉱業地域では鉱山労働者のストなどが時々発生している。

(2) 対処法

該当情報なし。

12-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

ザンビアでは、2002年9月南部州において、夜間自宅に侵入した強盗に青年海外協力隊員が銃撃され重傷を負うという事件が発生し、2002年11月には西部のKafue National Park (カフエ国立公園)においてミニバスで走行中の日本人観光客2人が銃撃され、1人が死亡、1人が重傷を負うという事件が発生した。以来、外務省の渡航情報が「渡航の是非を検討して下さい」に引き上げられ、JICAの安全対策措置も「業務目的外渡航見合わせ」に引き上げられた。

その後、外国人が被害者となる凶悪犯罪が発生していなかったことから、2004年5月より、外務省の渡航情報及びJICAの安全対策措置が順次引き下げられ、現在以下に至っている。

最新情報は以下のサイトで確認のこと。

<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/> (外務省「海外安全ホームページ」)

(2) 住宅の防犯対策

該当情報なし。

(3) 市中での防犯対策

< ザンビア滞在時の注意 >

夜間の徒歩による外出は危険なので、絶対にしないこと。自家用車がない場合は、宿泊しているホテルに待機しているタクシーを利用する。タクシーがない場合は、ホテルに依頼して呼んでもらう。ルサカ市内では電話をすればタクシーを回してくれるタクシー会社、Dial Cabがある(電話番号:0966-222222)。また、白タクは絶対に使用しないこと。水色の車体で、白いナンバープレートに赤字でナンバーが記してある正規のタクシーを使用する。

ホテルあるいはロジ内でも、盗難が発生することがあるので、多額の現金やパスポートなどの貴重品はセイフティーボックスに預ける。

マーケットやバス乗り場など、人が多く集まる場所ではスリや置き引きが頻繁に発生する。貴重品や身の回りのものには十分に気を付けること。

ザンビアはマラリア汚染地帯で、HIV/AIDSやコレラなどの感染症も蔓延している。渡航前にこれらの感染症に関する知識を十分に得るとともに、ザンビア滞在中は十分な予防措置をとる。

ザンビアでは、国内の長距離移動をする場合は、警察あるいは入国管理官、税関などによるチェックポイントが多くある。特に入国管理官によるチェックは、最近中国人の入国が増加しているため、東洋人に対して厳しくなっている傾向にあり、ルサカや地方都市などの市内でも、入国管理官などに身分証明書の提示を

求められることがある。市外に出るような遠距離移動の際は、パスポートをすぐに提示できるようにしておくとともに、市内ではパスポートのコピーを常に掲示し、入国管理官などの尋問を受けた場合は、高飛車に出るようなことは決してしないこと。

ザンビアでは空港、駅、橋、国境などの公共建築物及び警察官の写真撮影は禁止されており、万が一写真を撮ってしまった場合は、大きなトラブルになる可能性があるので注意すること。

ザンビアでは、女性のヌード写真などのわいせつ物の持ち込みは堅く禁止されている。一般の週刊誌上にヌード写真がある場合も、わいせつ物と認められるので、雑誌の持ち込みには十分に注意する。

国立公園のなかや付近のロッジの多くは、柵などで囲まれておらず、特に夜間はカバなどの大型野生動物がロッジの敷地内に来ることがあるので、ロッジ職員の指示にしたがって十分に注意すること。

< 自家用車を運転する場合の注意 >

夜間の長距離移動(市外に出るような移動)は危険なので、絶対にしないこと。主要都市間の道路は、路面が比較的よい状況にあるが、思いがけないところに穴が空いていることもあるので、スピードの出しすぎに注意し、安全運転を心がける。

市内の道路の制限速度は65km(場所によっては40kmのところもある)で、市外の幹線道路の制限速度は100kmである。ルサカ市内などでは、スピード違反の取り締まりも行っている。また、運転中の携帯電話の使用や飲食も罰金の対象となるので注意する。

ルサカ市内では車輛強盗、車上荒らしが多く発生しているので、駐車する場合は、警備員がいるような駐車場に駐車するとともに、車内には絶対に貴重品を残しておかない。また、アラームやハンドルバーなどの防犯対策をしておくことを勧める。リビングストーンなどでも、人通りの少ないところに駐車すると、車上荒らしのターゲットになりやすいので、駐車場所には十分に注意する。

ルサカ等の大都市では、カージャックが数多く発生している(ルサカでは1日1件以上発生)。最もよく発生する時間帯は19:00~21:00。車を運転する場合は、尾行している車がないかどうかを十分に注意すること。

運転中は必ずすべてのドアをロックすること。昼間も、開いている窓から手を入れられてシートに置いてある鞆などが盗まれる事件が頻繁に発生している。窓を開く場合は、手を入れられないように5cm以内にする。また、鞆などは、シートの上に置かず、フロアの上に置く。

特にルサカ市内では、ガソリンスタンドは日中でも強盗に襲われることがある。土日の売り上げを狙って月曜日にガソリンスタンドが狙われることが多いので、夜間や月曜日にはガソリンスタンドを利用しないようにする。

< 長距離バスを利用する場合の注意 >

夜間の長距離バスによる移動は危険なため、避ける。

Mazhandu、Jordanなどの比較的信頼性の高いバス会社を利用すること。値段の安いバス会社を利用すると、バスが故障する確率が高く、貴重な旅行の時間を無駄にしてしまうことになる。

長距離バスでは、大きな荷物は、車体の下のトランクに入れなければならない。万が一、荷物が紛失した場合でも、バス会社は一切弁償してくれないので、チェーン等で荷物をくくりつけるなどの自衛策が必要。また、自分で荷物をトランクに載せるようにすること。Call Boyと呼ばれる少年たちやポーターに任せることは勧められない。

到着先では、タクシーの客引きが寄ってくるが、目的地までの料金を事前に確認し、法外な料金を請求されないようにすること。また、白タクには絶対に乗らない。

(4) 注意すべき場所、危険地域

< JICAザンビア事務所安全対策措置 >

	業務渡航	一般渡航 / 3ヶ月未満の滞在者
ルアブラ州	事務所承認: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 注意喚起: 上記以外	渡航禁止: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 事務所承認: 上記以外
北西部州	渡航禁止: アンゴラ国境20キロ地帯 事務所承認: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 注意喚起: 上記以外	渡航禁止: アンゴラ国境20キロ地帯 コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 事務所承認: 上記以外
中央州	事務所承認: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 注意喚起: 上記以外	渡航禁止: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 (ただし、T2道路は除く) 事務所承認: 上記以外
コッパーベルト州	事務所承認: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 (ただしNdola市、Mufulira市を除く) 注意喚起: 上記以外	渡航禁止: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 (ただしNdola市、Mufulira市を除く) 事務所承認: 上記以外
西部州	渡航禁止: アンゴラ国境20キロ地帯 注意喚起:	渡航禁止: アンゴラ国境20キロ地帯 事務所承認:

	上記以外	上記以外 一般渡航、3ヶ月を超える滞在者について、モンゴ郡は注意喚起(ナミビア国境～Mongu市に抜ける幹線道路については事務所承認)、カオマ郡は注意喚起。
北部州	事務所承認: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 注意喚起: 上記以外	渡航禁止: コンゴ民主共和国国境20キロ地帯 事務所承認: 上記以外 (タンザニア～ザンビアへの鉄道による移動含む)
ルサカ州	注意喚起	注意喚起
南部州	注意喚起	注意喚起
東部州	注意喚起	注意喚起

しかしながら、特に首都のルサカにおいて、カージャックや住居侵入といった凶悪事件が数多く発生しており、また地方においても犯罪に遭遇する可能性は十分にある。

(5) 被害時の心得

< 万が一犯罪に遭った場合の対処 >

犯罪者はAK47やピストルなどの銃器を持っている場合が多いので、犯罪に遭った場合は絶対に抵抗しない。銃器を突きつけられた時は、「ヘルプ！」と叫んだり、急に手を動かすなどの行為は犯罪者をいらだたせたり驚かせたりするので、大きな声を出さず、ポケットに手を入れていない状況であれば、犯人を刺激しないようにゆっくりと手を上げる。ポケットに手を入れている状況であれば、犯人に指示されるまでは動かないようにする。

< 緊急連絡 >

任国で携帯電話を持っている場合は、当国にてSIM Cardを購入し、挿入すれば使えるようになる。ザンビアにはAirtel(局番:0977, 0978, 0979)、MTN(0966)、Zamtel(0955)の3つの電話会社がある。当国入国後、SIM Cardを購入し、携帯電話を使えるようにすることを勧める。SIM Cardは5,000ザンビアクワチャ程度で、市内の多くの場所で購入可能である。

また、任国においてInternational Roamingのサービスを申し込むことによって、SIM Cardを入れ替えずに、任国の電話番号のまま携帯電話が使用できる場合もあるので、当国渡航前に確認することを勧める。

なお、当国の安全対策措置は、当国に渡航したJICA関係者の犯罪被害の有

無、当国の治安状況の変化等を勘案し、業務目的外渡航可能な地域を拡大するか、現行を維持するか、検討することとする。

12-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

大きな災害は少ない。下水が未整備なため雨季に小洪水が起きたり、灌漑設備不足のための干ばつがある程度である。一般家庭での被害は少ない。

(2) 防災対策

防災施設などは特にない。日ごろから食糧の備蓄を心がけるとよい。

(3) 被災時の心得

安全なところまで避難して救出を待つこと。日本大使館、などへ速やかに連絡を入れること。

12-4 緊急連絡先電話番号

- ・日本大使館 : 0211-251555
- ・警察 : 999

13. 社交



13-1 風俗習慣

服装、社交上の習慣は西洋化されている。一般にザンビア人は男女ともに身だしなみに気を遣う。

結婚式は教会で行われることが多い。裕福な家庭の場合は、結婚式の後に飾り付けた車で新郎新婦、親類縁者が市内を回り、公園などで記念写真を撮る。ルサカの場合はUNZA(ザンビア大学)構内にある池のほとりが格好の記念撮影ポイントとなる。式に先立ち、親しい女性だけで新婦を囲むキッチンパーティーが開かれる。これは、新婦に夫婦のあるべき姿などを伝授するために開かれるもので、興に乗るにつれ寸劇が始まることもある。キッチンパーティーに招かれた場合は、台所用品を1品持参するのが現地の習慣である。

葬式はザンビアの習慣に則って行われ盛大である。親族はもちろんのこと、友人、知人たちが各地方から一堂に会し、2～3日にわたって行われる。葬式では、男性は家の中へ入れない。男性は庭に設置されたテントで、女性は家の中で故人を偲ぶ。女性はチテングを着用のこと。葬儀用の車は追い越してはいけない。ただし、大都市ではこの習慣も薄れつつある。

キリスト教徒が多く、土日は欠かさず教会に行く人が多い。一方で、Witch Doctor(伝統医)に対する信仰も根強く共存している。

13-2 パーティーでの留意点

公式の席では正装が必要である。パーティーはなんとなく始まり、飲み物がなくなれば終わるというのが現地流である。

13-3 来客時の留意点

招待した客の宗教などに留意し、失礼がないように誠意を尽くすこと。

13-4 訪問時の留意点

招待を受けた場合には、約束の時間より前に行かないよう留意する。招待された事を感謝し、気持ちを表すこと。また、食事などに招待されている場合は、小皿や食べ物を手土産にしない方がいいこともあるので事前によく確認すること。

13-5 禁止されている言動(タブー)

ザンビアと日本との金銭感覚の差を認識し、金銭の取り扱いや生活態度については十分に注意すること。

人種差別的な発言は慎むこと。場合によっては訴えられることもある。

同性、結婚前の同棲、夜中に墓場に行くこと、WitchもしくはWitch Doctorを連想させる行為はタブーとされている。

13-6 日本人会

日本人会への入会は任意。(電話:0211-254501、FAX:0211-254935)。

13-7 JICA帰国研修員同窓会

ZAJIFA (Zambia-JICA Fellowship Association) があり、会員は約360人(2011年10月現在)。JICAザンビア事務所の支援により2003年から活動が活発化し、2010年度はセミナーやパンフレット作成、年次総会などを行った。

また、JICAでは青年海外協力隊員の派遣前現地訓練活動の一環として、会員の家にホームステイするプログラムも実施している。会員は親日家で、政府機関の要職についている人物が多く、日本人や日本に対する理解がある。

13-8 現地の人々との交流

該当情報なし。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

公立学校は小学校の9年間、中・高等学校3年間を経て、職業訓練校、専門学校もしくは大学に進む。小学校に入学する年齢は7歳からで、学費は原則として無料であるが、制服、教科書代などは必要である。学年は3学期に分かれ、新学期は1月から始まり、毎学期ごとに1カ月ほどの休みがある。上級学校進学前に試験がある。

私立学校は小・中学校があり、学制は公立学校に準ずる。小学校に入学する年齢は5歳(G1)からである。授業は英語で行われる。通学手段は自家用車での

送迎か、学校によってはスクールバスがある。

幼稚園は2歳から入学できるEarly Learning Center と、4歳からのReception (Pre-School)とに分かれている。

現在、日本人子女(義務教育年齢)が通学しているのは、私立の学校である。現地での中学生以上の教育問題はきわめて深刻なもので、中学生以上は英語が堪能な場合を除いてはすぐには入学できないこと、入学できても日本での教育との差が非常に大きいことを念頭に置く必要がある。

日本人子女の多くは、現地校を主に通いながら補習授業校にも通学している。義務教育年齢者は海外子女教育振興財団の通信教育を受けることを勧める。

< 海外子女教育振興財団 >

URL: <http://www.joes.or.jp>

E-mail: somu@joes.or.jp

受付時間: 9:30 ~ 17:30 (月 ~ 金曜日、祝日・年末年始を除く)

< 東京 >

住所: 〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル6階

TEL: 03-4330-1343 / FAX: 03-4330-1355

E-mail: somu@joes.or.jp

< 関西分室 >

住所: 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

TEL: 06-6344-4318 / FAX: 06-6344-4328

E-mail: kansai@joes.or.jp

(2) 現地校、外国人学校

インターナショナル・スクールは以下のとおり(詳細はPart3 イエローページを参照)。



- ・The International School of Lusaka (私立)
- ・Lusaka International Community School (私立)
- ・AIS (American International School) (私立)
- ・The Italian School of Lusaka

(3) 幼稚園

The International School of LusakaとLusaka International Community School、AIS、The Italian School of Lusakaには、併設の幼稚園がある。

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

現地にある図書館は以下のとおりである。



- ・British Council Library
- ・United States Information Service
- ・Library of University of Zambia (ザンビア大学図書館)
- ・City Library

・Alliance Francaise

15. 家庭の使用人



15-1 一般事情

日本人家庭の多くは、家政婦／夫(ハウスポーイもしくはメイド)、運転手、庭師、ガードマンを雇用している。同じ敷地内の住宅に使用人が家族単位で住み込む場合と通いの2通りがある。また、幼児のいる家庭では、ベビーシッターを雇用しているところもある。

採用にあたっては、契約書を作成する必要がある。契約書には、仕事内容、給料、就業時間、休日などを明確にしておく。契約書の作成については、とりわけ勤務条件に関するトラブルを訴訟に持ち込まれた時などに重要となるので、弁護士資格保有者に相談することを勧める。また、NRC (National Registration Card) のコピーをとっておくとよい。

契約事項は給料、勤務時間、契約終了時の条件などである。ザンビアの祝日と日曜日は休日であるため、休日を含めた時間外の勤務については、超過勤務手当は単価を決めて支払う。給料は月末払いが一般的で、勤務シフトにもよるが家政婦／夫、庭師などが月35万～45万ザンビアクワチャ、運転手は40万～50万ザンビアクワチャ。勤務時間内の食事(通常は昼食のみ)は材料を渡して調理させるか(シマが多い)、Meal Allowance(食費)として現金で渡すかのどちらかを定める。クリスマスには鶏1羽まるごとや、現金などのボーナスを渡すのが慣例である。

解雇には1か月前の通知が必要であるが、解雇理由が使用人の落ち度による場合はこの限りではない。労働者の退職金は1年間の勤務に対して1か月分の基本給月額というのがザンビアの慣行ではあるが、個人雇用の使用人は日雇い労働者に準ずるとみなされるため、必ずしも慣行にしたがう必要はない。ただし、Industrial Court(労働関係裁判所)に駆け込まれることもある。また、本採用の前に1～3か月間の試用期間を設けておくことを勧める。試用期間中は24時間前までに通告をすれば解雇が可能である。(その旨契約書に記載しておくこと。)

本採用後に給料天引きのローンを申し出てくることもある。

なお、保険については個人雇用主に義務はないが、ザンビアにはNational Provident Fund(年金制度)とSkim Card(スキムカード)と呼ばれる健康保険制度がある。特に後者については、月々の掛け金自体は安く、加入者は政府系医療機関(クリニック)で無料診療が受けられるため、雇用管理の面からも雇用主は掛け金を肩代わりするとよい。

住み込みでない使用人を雇う場合は、夜19:00を過ぎると彼らが利用できる安全で安価な公共交通機関が終了してしまうため、雇用主がタクシー代を払う必要がある。また、治安を考えるとタクシーの利用が困難となる夜間まで残業させることができない場合もある。

15-2 運転手

(1) 雇用

知人の紹介により、面接、実技試験などを行って選考する。本採用の前に1～3カ月間の試用期間を設けたほうがよい。NRCに加え、運転免許証のコピーもとっておいたほうがよい。ザンビアの運転免許証は5年ごとに更新するため、有効期限が切れていることがあるので注意する。

(2) 日常管理

出退勤時刻、待ち時間に車中にあるかどうか、勝手に白タク行為をしていないかや、洗車などについてチェックをする。走行距離を出退勤時に記録させてもよい。

(3) 教育指導

安全運転を徹底させる。ザンビアの人には、高スピードで走るのが上級技術だと思いついでいるところがあるため、適切なスピードで走行することや、一定の車間距離を保つこと、停車位置などに留意させる。身だしなみを整える(彼らの収入では衣類の購入は困難なため、制服を出す方法もある)こと、カージャックを防ぐため、駐車時は車から離れておくことなどを指導しておく。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

15-3 家政婦/夫

(1) 仕事の種類と人数

仕事の内容は掃除、洗濯、アイロンがけ、皿洗い、料理の下ごしらえなどであるが、雇い主の家族構成によって多少異なる。

(2) 雇用

運転手と同様。

(3) 日常管理

出退勤の時間、仕事の内容について管理する。雇い主が家を空ける時には特定の場所や部屋には鍵をかけて貴重品を保管する。他の使用人の前で責めたり叱ったりすると、根に持たれることがあるので、1対1で話すこと。その場合、まずは口頭で、次に文書で注意し、改まらない場合には解雇もありうることを告げる。

住居が広くないために、パートタイム(例：1週間に3日間)で雇用している例がある。また2世帯で1人の家政婦/夫を、勤務が重ならないようにパートタイムで雇用している例もある。

盗難が露見した場合は、通常は即解雇も当然であるが、やはり根に持って嫌がらせの電話をかけてきたり、不当解雇として裁判に持ち込まれたりするケースもあるので、明らかに相手が悪い場合でも1カ月分の給料を支払うなど、穏便な措置をとったほうがよい。待遇については他の家の使用人との間で情報が行き来している場合もあるので、近隣の住人と情報交換し、相場などを確認しておく

よい。

15-4 庭師、ガードマン

庭師については家政婦／夫に準ずる。

ガードマンについては、一般には警備会社と契約することが多い。遅刻や無断で持ち場を離れたり、時には泥棒の手先である場合もあるので、監督には注意を要する。業務に関係ないので、家には入れない。勤務態度が悪い場合は会社に対してクレームを申し出るとよい。可能であれば同一人物が毎晩勤務できるように会社と交渉することも重要である。緊急時にボタン1つで武装した警備車両を呼ぶことのできる「パニックボタンシステム」を併設することも有効である。

主な警備会社は以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。



- ・Skills Development Center
- ・Mint-Master Security Zambia Ltd.
- ・Armcor Security Ltd.
- ・Securicor Zambia Ltd.

16. メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

現地の新聞の言語は英語である。全国規模の新聞には「The Times of Zambia」「Zambia Daily Mail」「The Post」の3紙がある。宅配はなく、取り扱い会社と定期契約して直接取りに行くか、市内の売店や路上の販売人から購入する。地方では郵便局で取り扱っている。

(2) 日本の日刊紙

OCSのサービスを受けることができる。ロンドンからの衛星版を2、3日遅れで入手できる。送付方法は郵送で、宅配はない。詳細はOCS(詳細はPart3 イエローページを参照)に確認のこと。

(3) 欧米紙 / 誌

新聞に関してはザンビア国内での入手は困難である。直接、欧米の代理店と契約し、郵送してもらうのが一般的である。“Time”などの雑誌類はMandahill・Shopping・MallやArcades内のスーパーや本屋で購入することができる。

(4) 日本の雑誌、書籍

ザンビア国内での入手は困難である。

16-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ZNBC放送が中波・短波で放送している。また、都市部(キトウェ、ンドラ、カブウェ、ルサカ、リビングストン)ではFM放送も行っている。放送時間は5:45～24:00である。主な放送局と周波数は以下のとおり。

・Radio 1(中波・短波、現地語放送)

ルサカでは818KHz、4911KHz、7220KHz、キトウェでは1071KHz。

・Radio 2(中波・短波、英語放送)

ルサカでは630KHz、7235KHz、キトウェでは549KHzなど。

・Radio 4(FM、英語放送 / 音楽番組)

ルサカでは88.2MHz、キトウェでは92.2MHz、ンドラでは94.5MHz。

・Radio Phoenix(FM)

ルサカのみ89.5MHz。

(2)NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

ガボン中継のほか、日本からの直接波も一部受信できる。ラジオジャパンをはじめとする先進国の短波放送は、比較的高い周波数で放送されるので、日本短波放送受信用(3～12MHz)では受信できない。海外放送受信用(21MHzまで受信できる)のラジオと、220V用の電源アダプターを購入する必要がある。東京では秋葉原の電気街などで入手可能である。

<ラジオジャパン問い合わせ先>

NHK国際放送局企画編成部

所在地 : 〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話 : 海外から : +81-3-3465-1111(平日 / 日本時間10:00～18:00)

日本国内から : 0570-066066

(NHK視聴者コールセンター / 平日 / 日本時間10:00～18:00)

E-mail : nhkworld@nhk.jp

<周波数表、番組表>

URL : http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

(周波数表、番組表確認)

FAX : +81-3-54940-5511 情報番号013

(日本語放送の周波数表・番組表FAXサービス)

郵送 : 上記NHK国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

(3)聴取可能なその他の外国放送

BBC(イギリス)、ラジオRSA(南アフリカ共和国)、VOA(アメリカ)、DW(ドイツ)などが良好に受信できる。

16-3 テレビ

(1)地上波放送局

ZNBCが都市部でテレビ放送を行っている。放送時間は、平日10:00～24:00、土・日・祝日7:00～24:00で、ほとんどは英語放送である。

(2)衛星放送、ケーブルテレビなど

外国人の多くは南アフリカ共和国発信の衛星テレビDSTV/Multichoiceに加入している。実際に番組を見るにはパラボラアンテナとデコーダーを同会社から入手し設置する必要がある。ハリウッドの映画、BBC、CNNなど最大80チャンネル

が見られる。全チャンネルを見る契約の場合、利用料は約月70米ドルである。
(変動するので確認する必要あり。)長期休暇などで家を空けて視聴しない場合は、利用停止する旨をMultichoiceに通知すると、料金が加算されない。

その他、チャンネル数は少ないが低料金の放送局がいくつかある。

(3)テレビ受信

受信方式は日本のNTSC方式とは異なりPAL方式である。日本のビデオテープ(NTSC方式)を見るのであれば、マルチタイプのテレビ、ビデオデッキが必要。マルチタイプのテレビ、ビデオデッキは、現地で購入できる。

<NHKワールドTV問い合わせ先>

NHK国際放送局企画編成部

所在地 : 〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話 : 海外から : +81-3-3465-1111 (平日 / 日本時間10:00 ~ 19:00)

日本国内から : 0570-066066

(NHK視聴者コールセンター / 平日 / 日本時間10:00 ~ 19:00)

E-mail : nhkworld@nhk.jp

<番組表の入手>

URL : <http://www.nhk.or.jp/nhkworld/> (週間番組表確認)

FAX : +81-3-5940-5511 情報番号011 (週間番組表FAXサービス)

<NHKワールド・プレミアム問い合わせ先>

(株)NHK情報ネットワーク「カスタマーセンター

所在地 : 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町7-13第二共同ビル5F

電話 : +81-3-5458-6601 FAX : +81-3-5489-8401

E-mail : premium@nhk-jn.co.jp

<番組表の入手>

URL : http://www.nhk-jn.co.jp/wp/ind_day1_a.htm (週間番組表確認)

FAX : +81-3-5940-5511 情報番号012 (週間番組表FAXサービス)

17. スポーツ、 趣味



17-1 スポーツ

(1)ゴルフ

ルサカの主なゴルフ場は次のとおり。

- ・Lusaka Golf Club
- ・Chainama Golf Club
- ・Chilanga Golf Club

(2)テニス、フィットネス

日本人が利用するテニス、フィットネスクラブには、Lusaka Clubのほかに InterContinental Hotel Lusaka (インターコンチネンタル・ホテル) Chrismar Hotel (クリスマ・ホテル) 内のクラブがある。

(3)フットサル

Show Groundにフットサルコートがある。事前予約が必要。(使用料は1時間100,000ザンビアクワチャ)

17-2 趣味

該当情報なし。

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

日本人が参加できる成人向け語学学校にはAlliance Francaise de Lusaka(フランス語)がある。

(2) 家庭教師

家庭教師による語学学習は可能である。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

(1) 地方への移動手段

< 航空 >

Zanbezi Airwaysが主要な都市をつないでいる。

(国際線に関しては「7-3 交通機関」参照)

国際線の発着空港はLusaka、Livingstone、Ndola、Mfuwe(South Luangwa National Park近く)の4カ所。

国内線の発着空港は、上記に加え、Jeki(Lower Zambezi National Park内)、Kasama(北部州)、Chipata(東部州)、Solwezi(北西部州)、Kitwe(銅パル州)がある。Solwezi 行きのcopperlink等新規路線の開通も頻繁に行われているため、常にフライトスケジュールを確認する必要がある。アフリカの路線は当日のキャンセル、時間変更、オーバーブッキングなどのトラブルがしばしば起こるため、余裕を持って旅行日程を組むこと。また国立公園に行く時などは小型チャーター機の利用も可能である。

< 長距離バス >

民営の長距離バスが運行している。ルサカではIntercity Bus Terminal(Didan Kimathy Road)から発着。古いバスが多く、部品の供給が困難なこともあり常に故障の危険がある。そのため時刻どおりには着かないことが多い。普通席・全席前売り指定などグレードはいくつかある。Mazhandu、Jordan等比較的信頼性の高いバス会社を利用すること。

なお郵便局の運行するポストバスは、定時運行、完全前売り制である。

< 車 >

車で旅行する場合は、警察、軍隊によるRoad Block(検問)が多いので、必ずパスポート、IDカード、運転免許証、車両登録証、車両保険証書を持参すること。水、多少の食料、予備のガソリン、スペアタイヤなどは必ず持参したほうがよい。主な道路には150kmごとにガソリンスタンドがあるが、チパタ方面は300km、ザ

ンベジ方面は500kmほどガソリンスタンドがない道もあり、注意を要する。

(2) 治安

キトウェ、ンドラ、ルサカなどの大都市と国内で紛争を抱えるコンゴ民主共和国やアンゴラとの国境地域を除けば治安はおおむねよい。偶発的な事故はどこでも発生する可能性があることは日本もザンビアも同じであり、常に意識的に隙を見せない注意が必要である。

18-2 主要観光地・保養地

何かと生活には不便が多いところではあるが、「ザンビア・ザ・リアル・アフリカ」の名のとおり、アフリカの手つかずの大自然を満喫できる。

リビングストンには世界三大瀑布の1つVictoria Fall(ヴィクトリア瀑布)があり、世界中から多くの観光客が集まる。ルサカから480km下ったところにあるジンバブエ国境の町で、約6時間のドライブで到着する。飛行機も週に数便飛んでいる。乾季には水量が著しく少なくなるため、豪快な滝を見るには雨季明けの3～6月がよい。ゴムボートによる川下り(ラフティング)、バンジージャンプ、マイクロカイト(軽飛行機)による遊覧飛行、カヌー、乗馬、サンセットクルーズも楽しめる。いずれもルサカの旅行代理店で予約できる。

ヴィクトリア瀑布直下からスタートし、ゴムボートでザンベジ川の急流(Rapid)を船頭の指揮のもとに次々に下っていく。ライフジャケット(救命胴着)とヘルメットを着用しているため、ときおりボートから落ちたり、転覆することもあるが、それもまた一興である。左右にそびえ立つ絶壁とクロコダイルを見ながらのラフティングは、世界で最もエキサイティングな川下りの1つであることは間違いない。

バンジージャンプは、ザンベジ川の大渓谷をまたぐVictoria Falls Bridge(鉄橋)から行う。水面から飛び込み台までの高さは110mあり、世界有数のバンジージャンプといわれている。ラフティング、バンジージャンプ等の予約は、次の旅行代理店に問い合わせる(詳細はPart3 イエローページを参照)。



・Travel Shop

・Voyagers/Imperial CarRental

マイクロカイトはハングライダーに座席とエンジンを付けたもので、パイロットに抱えられるような姿勢で飛ぶ。マイクロカイトで上から見下ろすヴィクトリア瀑布は絶景である。

ザンビアには18の国立公園がある。ライオン、ヒョウ、ハイエナなどの肉食獣をはじめ、ゾウ、キリン、バッファロー、シマウマ、カバなどの大型草食獣、クドゥ、インバラ、ブクなどのレイヨウ類を間近に見ることができる。宿泊施設が整っているのはサウスルアンギア国立公園、ローワーザンベジ国立公園、カフエ国立公園の3カ所で、ロッジ所有の四駆車でサファリが楽しめる。

草原が広がるケニアやタンザニアのサバンナとは異なり、雨量の比較的多いザンビアの植生はミオンボと呼ばれる灌木林である。そのため、ザンビアのサファリでは通常、オープンカーで灌木の間をぬうようにして動物を探すことになる。

動物を比較的見つけにくい反面、車道からはずれることのできない周辺国のサファリとはまた違うスリルが味わえる。ナイト・サファリやウォーキング・サファリが可能なことも、特筆すべき点である。サファリを楽しむのは乾季の5～10月が中心になる(9～10月が最もよい)が、通年営業のロッジもある。

確実に動物を見るにはサウスルアンギア国立公園がよく、ザンビアで野生のキリンが見られるのはここだけである。ルサカからは航空機の定期便が就航しており、40分ほどのフライトで到着する。

ザンベジ川に沿って広がるローワーザンベジ国立公園では、サファリと釣りの両方が楽しめる。ルサカから行くには、2時間半ほどドライブした後、ロッジ所有のモーターボート(所要時間60～90分)でピックアップしてもらるか、チャーター機(所要時間30分)を使うことになる。

カフエ国立公園は、場所により異なるがまだ開発が進んでおらず、その分秘境の雰囲気味わえる。サファリのほか釣りもできる。車でも行けるが、場所によってはチャーター機を使う。

その他ロッキンバー国立公園ではキャンプが可能である。カフェ・レチェと呼ばれるレイヨウの群れが湿原一面に広がり、その向こうに太陽が落ちていく様は一見に値する。

サファリには7倍50mm程度の双眼鏡を持参したほうがよい。また野生動物の撮影に興味がある人は、最低300mmの望遠レンズを持参することを勧める。6～7月は朝夕かなり冷え込むため、セーター、ウインドブレーカーなどの防寒具も必要である。

そのほかタンガニーカ湖、ザンベジ川、カリバ湖などではアフリカならではの豪快な釣りを楽しめる。タンガニーカ湖は透明度世界一の湖で、200種以上に分化したカワスズメ科の固有種がいることで世界的に有名である。スンプ国立公園内のKasaba Bay(カサバ・ベイ)とNkamba Bay(ンカンバ・ベイ)にロッジがあり、モーターボートでルアーのキャストイング、トローリングが楽しめる。対象魚としては40kg以上のナイルパーチ、世界最大のカワスズメであるクビなどが挙げられる。タンガニーカ湖の魚はどれをとっても海の魚かと思うほど美味で、特にこの2種は刺し身にしても焼いても鍋に入れてもおいしい。雨季(10～3月)と7～8月がよく釣れる。

ザンベジ川でのカバやワニを見ながらの釣りもここでしか味わえない。上流ではルクル、下流ではローワーザンベジ国立公園周辺のロッジで、モーターボートを使っただけの釣りが楽しめる。対象はなんといってもタイガーフィッシュである。鋭い歯を持つ獰猛な肉食魚であるこの魚はピラニアの近縁種であり、大きいものでは10kg近くにもなる。水面からジャンプし格闘する姿は、世界中の釣り人を魅了してやまない。ルアーでも餌でも釣れる。ルクルでは、タイガーフィッシュのほか大型のブリーム類(テラピア科)の釣りも楽しめる。

国立公園に隣接したゲーム・マネジメント・エリアでは、ライセンスを購入して狩りすることもできる。モンゴのコンボカ・セレモニーなど、伝統的祭りもいくつか

ある。ルサカ近郊には野生動物牧場が2カ所あり、食事と簡単なサファリが楽しめる宿泊もできる。そのほか、カランボの滝(落差218m)、カピシャ温泉などがある。

各地の宿泊施設については、上記2軒および次項「18-3 旅行代理店」の旅行代理店に問い合わせる。

18-3 旅行代理店

旅行代理店は多数ある。まず電話、FAX、E-mailなどで予約を入れ、その後直接出向いたほうがよい。仕事が遅いので、何度も足を運んで状況を確認すること。また、出発前の再確認も必ずすること。日本人がよく利用する旅行代理店は次のとおりである。



- ・Addit Travel and Tours
- ・Diane
- ・Voyagers Travel & Tours
- ・Travel Tech Ltd.
- ・Mukwa Travel

19. 私財の輸送、引き取り、



19-1 家財道具

(1) 輸送業者

通関を仲介する輸送会社には、SDV Zambia Ltd.、Manicaなどがある(詳細はイエローページを参照)。料金は、送るもの・重量のほか、使用する航空会社などによっても異なるため、確認が必要。

(2) 輸入手続き

飛行機利用時の預け入れ荷物(搭乗手続時チェックイン分)には、重量制限がある。制限重量は、エコノミークラスで20kg、エグゼクティブ(ビジネス)クラスで30kg。事前の航空会社や旅行代理店などとの交渉によって、10kg程度の制限重量の増加が可能になる場合もある。機内持ち込み荷物にも重量制限があるので、注意が必要。なお、制限重量を超えた分については、約1万円/kgのエクセスチャージ(超過料金)が課される。

最近では空港での手荷物通関の係官のチェックが厳しくなっている。トラブルが生じないように、荷物の内容物については注意が必要。

なお、預け入れする荷物を、東京からルサカまで直接送るか、南アフリカ共和国で一度受け取り、再度南アフリカ共和国からザンビアに送るかについては、南アフリカ共和国での荷物の取り扱い状況などによって判断すること。日本の空港では南アフリカ共和国での受け取りを勧められる場合がほとんどである。

アナカン(航空別送荷物)の場合、フライトが決まると、輸送会社が自宅まで引き取りに来るので、詳細は、輸送会社か旅行代理店などに確認すること。

アナカンを引き取る際には、日本出発時に輸送会社から受け取った空送書類(Airway Billなど)と旅券が必要である。

(3) 輸入貨物の受け取り港

海送の場合、南アフリカ共和国のダーバン港かタンザニアのダルエスサラーム港で陸揚げされ、そこから陸送されることになるが、盗難・損傷の危険性が高い。車両を除き家財道具は、多少割高でもアナカンで空送したほうが確実。

19-2 自動車

(1) 一般状況

ザンビアでの生活には、車があると大変便利である。道路は整備状況がよくないため穴が多く、タイヤの径の小さい軽自動車や、車高の低いスポーツカーなどは避けたほうが無難である。ルサカ市内を主に走行するのであればセダンで十分であるが、地方や悪路を走ることが多い場合は、四輪駆動車を勧める。また、交通事故の多さを考えると、小型車よりは中・大型車がよい。

(2) 輸入手続き

ザンビアへの輸送はコスト(輸送代、通関代、その他)がかかる上、引き取りまでに時間がかかり効率的ではない。ただし中古車の場合、現地で購入すると車の整備状況が悪く、値段が日本に比べて高いため、日本で購入してから輸送するというケースも考えられる。赴任の3カ月以上前から手続きをするのが望ましい。輸入する場合は、日本の輸送会社からの書類を添えてアナカン引き取りの要領で行う。

日本から新車を購入する場合は、三菱車は三菱商事自動車部、トヨタ車は三井物産に問い合わせるとよい。

日本からの中古車は現地の車とは仕様が異なるため、修理に必要な部品は日本から取り寄せる必要がある。現地にも日産、トヨタ、三菱、ホンダなど各メーカーの代理店があるが、日本人スタッフが常駐しているのは三菱の代理店(Marunouchi Corporation)だけである。

車の輸送はタンザニアのダルエスサラーム港経由または南アフリカ共和国のダーバン港経由ルサカ行きが主である。ダルエスサラーム港経由はルートがすでにできているが、部品の盗難に遭ったり、輸送に時間がかかることもある。発注から到着までは約2～3カ月を要する。

(3) 現地での購入

< 新車を購入する場合 >

中古車販売店が少なく、整備状況の悪い車が多いため、帰任時に売却することを見越して、高くても新車を購入する人もいる。ただし在庫がない場合もある。手続きはすべてディーラーが行う。

ディーラーは以下のとおり。

- ・Southern Cross Motors LTD. (三菱)
- ・Toyota Zambia
- ・Honda Zambia LTD.

< 中古車を購入する場合 >



中古車の値段は日本に比べてかなり高い。購入方法としては、1) ザンビア人以外の外国人か日本人から購入する方法と、2) 中古車販売店から購入する方法の2通りがあるが、車の程度などが事前に把握でき、金額も安いので、1) を勧める。金額は3000米ドル(セダン)から1万米ドル(四輪駆動車)くらいである。また、2) の場合は、整備状況を十分にチェックしたほうがよい。日本人は個人中古車ディーラーには甘く見られており、試乗として中古車両を7日間日本人に預け、使用料として500ドルを請求された事例、手付け金として数百ドル支払い、その後音信不通になった事例がある。ザンビア人から紹介された個人業者は使わない方がよい。中古車販売店は多数ある。

(4) 自動車登録

登録は輸入会社がナンバープレートの引き取りから保険の手続きまでを行う。

(5) 免許証取得

ザンビアはジュネーブ条約加盟国ではないので、国際免許証(正式には国外運転免許証)が有効ではない。既に運転免許を取得している場合も、そうでない場合も基本的にはほぼ同様の手続きになる。ただし、既に運転免許を取得している場合は、ザンビアでの運転免許への切り替えとみなされ、省略できる部分があるので国際免許証もしくは日本の免許証を持参した方がよい。

免許の申請はRoad Transport and Safety Agency(RTSA)で行う。申請の際、交通規則や標識などの口述試験が行われる。必要な書類は、ザンビア大学教育病院(UTH)での健康診断書、運転免許申請書、旅券(またはIDカード)、ワークパーミット、既に免許を取得している場合は免許証である。口述試験に合格すると仮免許が発行される。有効期間は3カ月である。(ただし、自動二輪の場合は1カ月)この間に練習を積み、自分の車を持ち込み、実技試験(敷地内、路上)を受ける。既に免許を取得している場合は、路上試験のみとなる。これには試験官が同乗し、定められた15分程度のコースを交通法規に則って走る。詳細は受験経験者にたずねるとよい。

合格すると、テンポラリー免許証が発行されるが、正式なものを取得するまでには約1~3カ月を要する。その間、必要に応じて延長の手続きを行う。

ザンビアで取得する免許はSADC(南部アフリカ経済共同体)共通なので南アフリカ共和国、モザンビーク、ジンバブエ、ボツワナ、ナミビア等はこの免許証で運転できる。

(6) 保険、税金

Third Party(自賠償保険)に加入することが義務づけられている。自損をカバーする保険を取り扱う会社もある。主な自動車保険を取り扱う会社は次のとおりである。



- ・Madison General Insurance Company Zambia Ltd.
- ・Zambia State Insurance Corporation
- ・Nico Insurance
- ・Diamond general Insurance Limited

・Professional Life

四半期ごともしくは1年ごとに、Road Tax(道路使用税)を支払う必要がある。税額は車種により異なる。

フィットネスと呼ばれる日本の車検制度のようなものもある。1年ごとにフィットネスを受ける必要がある。Road Tax 支払い済み及びフィットネス合格を証明するステッカーがフロントガラスに張っていない場合は、警察による検問などで止められ罰金を請求される。

20. 地方都市



ルサカ州を始め、計9州に行政区分されている。

Province(州)	Capital(州都)	一般事情
Central (中央州)	Kabwe (カプエ)	ザンビアのほぼ中央にあり、ルサカから約100Km北に位置する。大鉱山を擁する鉱業都市で、亜鉛や銀、マンガン、カドミウム、チタンなどを産出する。
Copperbelt (コッパーベルト州)	Ndola (ンドラ)	ンドラへはルサカから長距離バスで約4時間。ザンビアの主要産業である銅を産出する大銅鉱山地帯。
Eastern (東部州)	Chipata (チパタ)	ルサカから約800Km東に位置する。ルサカから長距離バスで約7時間。マラウイへの国境越えの基点の町。
Luapula (ルアブラ州)	Mansa (マンサ)	ルサカから長距離バスで約10時間。二つの大きな湖を持つ州で、漁業収入に頼る人口が多い。
Lusaka (ルサカ州)	Lusaka (ルサカ)	ザンビア最大の都市であり、首都である。標高1300m。
Northern (北部州)	Kasama (カサマ)	ルサカから約800Km北東に位置する。ルサカから長距離バスで約10時間。TAZARA鉄道が通る。
North-Western (北西部州)	Solwezi (ソルウェジ)	ルサカから約580Kmに位置する。標高1235mの高原上にある。主要産業は銅鉱石の採掘及び精錬。
Southern (南部州)	Livingstone (リビングストーン)	ルサカから長距離バスで約6時間半。ジンバブエやボツワナ、そして南アフリカまでの道のりを結ぶ交通の要衝であり、ヴィクトリアの滝を中心とした観光スポットの玄関口でもある。
Western	Mongu	ルサカから約580Km西に位置する。ル

(西部州)	(モング)	サカから長距離バスで約7時間。習慣法や土地所有法は現在もロジ王国時代のままの法律が適用されている。
-------	-------	---

Part 3 イエローページ

*特に記載のない限り、ザンビア事務所のあるルサカの情報が中心になっています。

1. JICA 事務所

所在地	Plot No.11743A, Brentwood Lane, Longacres, Lusaka, ZAMBIA
郵便物宛先	P. O. Box 30027, Lusaka 10101, ZAMBIA
TEL/FAX	TEL :+260-211-254501 FAX :+260-211-254935
E-mail	zb_oso_rep@jica.go.jp (ザンビア事務所)、jicazb-jv@jica.go.jp (青年海外協力隊企画調査員専用)

2. 日本大使館

所在地	No.5218, Haile Selassie Avenue, Lusaka, Zambia (Hotel Inter Continental 正面)
TEL/FAX	TEL :0211-251555 FAX :0211-254425/253488
URL/E-mail	URL :http://www.zm.emb-japan.go.jp/ E-mail :jez@zamtel.zm

3. 緊急連絡先電話番号

日本大使館	TEL :0211-251555 Fax :211-253488
警察	TEL :999

4. ホテル

Taj Pamodzi Hotel (タジ・パモジ・ホテル)	Church Road TEL :0211-254455 FAX :0211-250995 URL :http://www.tajhotels.com/Business/Taj%20Pamodzi%2CLUSAKA/ E-mail :pamodzi.lusaka@tajhotels.com 料金: Single US\$300, Double US\$325, Twin US\$325 短期出張者が利用している。各国からの要人も滞在する。会議場、レストランなども充実している。
InterContinental Hotel Lusaka (インターコンチネンタル・ホテル)	Haile Selassie Avenue 郵便物宛先 : P.O.Box 32201, Lusaka 10101, Zambia TEL :0211-250000/250600 FAX :0211-250895 URL :http://www.ichotelsgroup.com/h/d/ic/1/en/hotel/lunha:isessionid=MQ300QP1WSEQYCTGWA E-mail :lusaka@interconti.com 料金: Single US\$396, Double US\$396, Twin US\$396 スポーツジム、プールあり。日本大使館の真向かい。
Southern Sun Ridgeway Lusaka (サウザン・サン・リッジウェイ・ルサカ)	Church Road TEL :0211-251666 FAX :0211-251501 URL :http://www.southern.sun.com/SSH/VHB/25383cf8de46a010VgnVCM100000650114acRCRD/64/47 E-mail :res@southern.sun.co.zm 料金: Single US\$280, Double US\$310 Taj Pamodzi Hotel の斜め向かい。
Protea Hotel Lusaka (プロテア・ホテル・ルサカ)	TEL :0211-254664 FAX :211-254606 URL :http://www.proteahotels.com/protea-hotel-lusaka.html E-mail :reservations@phlusaka.co.zm 料金: Single US\$150, Double US\$160, Twin US\$160 ショッピングモール Arcades の一角。
Chrismar Hotel (クリスマ・ホテル)	Los Angeles Boulevard TEL :0211-253036 FAX :0211-252569 URL :http://www.chrismar.co.zm/ E-mail :chrisma@zamnet.zm 料金: Single US\$132 (交渉次第で長期滞在割引有)、JICA 事務所から徒歩 5 分。スポーツジムあり。
Longacres Lodge (ロングエーカーズ・ロッジ)	Los Angeles Boulevard, Longacres TEL :0211-254847 料金: All Doubles rooms ZMK250,000 JICA 事務所から徒歩 5 分。ロングエーカーズショッピングエリアの近く。

<長期滞在者用> キッチン付き。滞在期間に応じた料金割引有り。

Matanga Villege

Plot No.6983-33 Old Brentwood Drive, Longacres (Opposite Swedish Embassy)

TEL :0211-256490

JICA 事務所のすぐ近く。

Blue Crest Lodge(ブルー Crest ロッジ)

15 Sable Road, Kabulonga

TEL :0211-260536

Moor Apartments

2019 Church Road

TEL :0211-257482

5.不動産会社

Homenet Hollywood

Mandahill Shopping Mall 内

TEL :0211-255743/7 ~ 9 FAX :0211-257466

URL :http://www.homenetzambia.com

E-mail : janet@homenetzambia.com

ProMark

Stand No. 7004, Mosi-oa-Tunya Road, Woodlands

TEL :0211-265180 FAX :0211-265107

E-Mail :promark@coppernet.zm

Dez Rez Real Estate Agency

Plot No.4162, Alex Masala Close, Off Chaholi Road

TEL :0211-/250072 FAX :0211-254838

E-mail :dezrez@zamnet.zm

Home Finders Zambia

Plot 6987, Lubu Road

TEL :0211-250777/250276 FAX : 0211-250777/250276

E-mail :home2000@zamnet.zm

6.保険(自動車保険も含む)

Madison General Insurance Company Zambia Ltd.

P.O COMESA Center (Ground Floor), Ben Bella Road

TEL :0211-228340 ~ 49 FAX :0211-236532

Zambia State Insurance Corporation

Premium House

TEL :0211-229343 FAX :0211-236088

E-mail :zsiclsk@zamnet.zm

Nico Insurance

Plot No. 1131 corner Parirenyatwa and Protea Roads, Fairview

TEL :0211- 37262/222862/226456/226547/232670 FAX 0211-222863

E-mail :nicozam@zamnet.zm

URL :http://www.nicozambia.com

Diamond General Insurance Limited

Base Park Alick Nkhata Road, Stand No.35184

TEL :0211- 253739 FAX 0211-253775

E-mail :insure@diamond.co.zm

URL :http://www.diamond.co.zm

Professional Life

Finsbury Park Kabwe Round About

TEL :0211- 366703 FAX 0211-222151

E-mail :ho@picz.co.zm

7.レストラン<シマ料理>

TEVETA Cafeteria

Millenium Village隣、TEVETA 敷地内

TEVETA の社員食堂だが外来者にも開放している。昼のみ営業。

Blue Nile Inn

UN Head Quarters の向かい

TEL :0211-256001

シマ、ステーキがある。ガーリックソース、ペリペリソースなどソースの種類が豊富。

The Queen's Calabash

Addis Ababa Drive沿いのモスクに面する側道を少し入ったところ。看板あり。
シマの付けあわせが選べる。メインメニューの種類も豊富。月～金の昼のみ営業。

8.家電修理

Audio Visual Unit , Ministry of Science Technology and Vocational Training

Birdcage Walk, Longacres, P/B RW16X

TEL :0211-253331-4/253211

JICAの職業訓練プロジェクト、シニア海外ボランティア派遣での実績あり。インターコンチネンタル・ホテルの裏にある。

9.医療機関

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/MedicalInformation/Africa/Zambia.pdf> JICA「ザンビア医療情報」参照

< 私立病院 >

Victoria Hospital

Plot No.5498 Lunsemfwa Road, Kalundu

TEL : 0211-290985/290967

診療時間: 月～金 8:00-17:00、土 8:00-13:00 (救急24時間)

入院可能。

Care for Business

4192 Addis Ababa Drive

TEL : 0211-252917/255287/254398

診療時間: 一般医 月～金 9:00-12:30 (救急24時間)

専門医 月～金 8:00-12:00 14:00-17:00、土 8:00-11:00 (要予約)

専門医は外科、内科、産婦人科、小児科、整形外科がある。

前払いをしなければ緊急でも治療をしてもらえない。

Corpmmed Medical centre

3236 Cairo Road

TEL : 0211-222612/226983

診療時間: 月～金 8:00-16:00、土・日 9:00-11:00 (救急のみ) (要予約)

小児科、内科、神経内科、外科、産婦人科。欧米人やザンビア医師が常勤。

Zambia-Italian Orthopedic Hospital

22 Dunduza Chisidza Road, Longacres

TEL : 0211-254601

診療時間: 月～金 初診 7:30-9:00 (要予約)

整形外科。

< 歯科 >

K.G. Dental Surgery

5459 Kariba Road

TEL : 0211-292219

診療時間: 月～金 7:30-12:00 14:00-16:00、土 8:00-13:00 (要予約)

中国人歯科医。月に一週間のみ口腔外科医が治療を行っている。

< 眼科 >

Sunbird Eye Clinic

65 Independence Avenue

TEL : 0211-252240

診療時間: 月～金 9:00-17:00、土 9:00-12:00

眼底検査可。眼鏡店有り。

< 薬局 >

Link Pharmacy

Manndahill, Arcadesの両ショッピングモール内

TEL : 0211-255556/7

両薬局とも薬剤師が常駐。

Jubilee Chemist

Kabulonga Shopping Center内

TEL : 0211-264578

薬剤師が常駐。

10. 金融機関

Standard Chartered 銀行 Mandahill 支店 Main Branch は Cairo Road

Mandahill Shopping Mall 内

TEL: 0211-255483 ~ 4 FAX: 0211-255485

URL: .standardchartered.com

E-mail: customer.first@zm

営業時間: 9:30 ~ 15:30(月 ~ 金)、9:30 ~ 12:30(土)、日曜祝日休み。

Standard Chartered 銀行 Kabulonga 支店

kabulonga Shopping Center と Melissa の間

TEL: 0211-261339/64620/266911 FAX: 0211-262593

営業時間: 8:15 ~ 14:30(月 ~ 金)、9:30 ~ 12:30(土)、日曜祝日休み。

11. レンタカー会社

Limo Car Hire & Rental Zambia

TEL: 0211- 278628 / 0977-743145

URL: http://www.limohire-zambia.com

E-mail: limohirezambia@gmail.com

Tuma Car Rental

TEL: 0211-268453 / 0955-776705

Jul's Limited

Plot 5507 Libala Rd, Kalundu

TEL: 0211-293972/292979 FAX: 0211-291246

URL: http://www.julscar.com

E-mail: julstravel@zamnet.zm

ロッジ経営、旅行代理業も行っている。

Taiwo Travel Car Hire & Tours

Plot Number 5772, Great East Road, Opposite The University of Zambia (UNZA), Kalundu,

TEL: 0211-291283/294015/294043/95333 FAX: 0211-291248

URL: http://www.taiwo.co.zm

E-mail: taiwo@iconnect.zm

旅行代理業も行っている。

Sepiso Car Rentals

TEL: 0211-220388 CELL: 0977-846742 TEL/FAX: 0211-225462

URL: http://www.sepisocarhire.com

E-mail: enquiries@sepisocarhire.com

Voyagers/Imperial Car Rental

TEL: 0211-253082 ~ 4 FAX: 0211-253048

URL: http://www.voyagerszambia.com/

E-mail: travel@voyagers.com.zm

旅行代理業も行っている。

12. インターネットプロバイダー

Zamnet

1st Floor Comesa House, Cairo Road

TEL: 0211-224149/59, 225358/59 FAX: 0211-224775 (Kitwe, Livingstone, Solwezi にランチあり)

E-mail: sales@zamnet.zm

Zamtel

(Lusaka) Kamuwala Zamtel Outlet Along Kimathi Road * Head office は Ndola

TEL: (Lusaka) 0211-357777/235250/222448/235246 (Head Office) 02-611111

E-mail: billing@zamtel.zm

電話会社が経営しており、電話局で料金を支払える。

Coppernet

Ground Floor, Mukuba Pension House, Didan Kimathi Road

TEL: 0211-223333 /224444 FAX: 0211-226666 (Kitwe, choma, Solwezi にランチあり)

URL: www.coppernet.zm/

E-mail: sales@coppernet.zm

UUNet

3rd Floor, National Savings and Credit Bank Building, Cairo Road

TEL: 0211-223715 FAX: 0211-223716

URL: http://www.uunet.co.zm

E-mail: info@uunet.co.zm

Microlink	Building 2, Central Park, Cairo Road TEL: 0211-222764/222793/222702 ~ 3 (Kitwe,Ndola,Chingola,livingstone にランチあり) URL: http://www.microlink.zm/ E-mail: info@microlink.zm
Africonnect	Plot 59, Great East Road, Lusaka TEL: 0211- 232005/221685 URL: http://www.africonnect.com/ E-mail: zm-enquiries@africonnect.com

13. 国際宅配サービス

Mercury Couriers (UPS) Lusaka Office	InterContinental Hotel Shop No.6, Haile Selassie Road TEL: 0211-22608/226090/239872/231137 FAX: 0211-239868 日本への荷物は約 3 日間で到着する。地方主要都市へも配送可能。(各主要都市にランチあり)
DHL	Makisi Road TEL: 0211-229768/229771 FAX: 0211-225529 (Airport) 271465/271232 (Express Cairo Road) 228212 日本への荷物は約 3 日間で到着する。地方主要都市へも配送可能。
FedEx	Nangwenya Road Roads Park TEL: 0211-252189/252191/252065 FAX: 0211-25285 (各主要都市にランチあり)

14. コンピューター機器販売店

Comnet International	Shop No.100, Carousel Shopping Center, Lumumba/Kafue Road Junction TEL: 0211-225035/232753 FAX: 0211-232752 E-mail: potech@zamnet.zm
Riso Trends Zambia Ltd.	Chinese Center Opposite Football House Alick Nkhata Road TEL: 0211-257845 FAX: 0211-257846 E-mail: risozambia@gmail.com
Computer Express	Shop No.100, Carousel Shopping Center, Lumumba/Kafue Road Junction TEL: 0211-225035/232753 FAX: 0211-232752 E-mail: potech@zamnet.zm

15. 輸送会社

Flexi Freight Ltd.	Plot 7205 Kachidza Road TEL: 0211-288005 FAX: 0211-287419 CELL: 0977-854345 Email: flexi@zamnet.zm
SDV Zambia Ltd	TEL: 0211-2 FAX: 01-271026 E-mail: airfreight@sdv.com.zm
Manica	Old Manica Road (Kabelenga Road), P.O.Box 31895, LUSAKA TEL: (Airport Branch) 0211-271025/271383 (Kabelenga Road Branch) 238836 FAX: 0211-271021

16. 教育機関 < インターナショナル・スクール >

The International School of Lusaka (私立)	P.O. Box 50121, Ridgeway TEL: 0211-250367/252291/253959/250362
Lusaka International Community School (私立)	P.O. Box 30528, Lusaka 242 Kakola Road, Roma TEL: 0211-292447/290626
AIS (American International School) (私立)	P.O. Box 31617, Leopards Hill Road TEL: 0211-260509/260510 FAX: 0211-260538
The Italian School of Lusaka	P.O. Box 33247, Lusaka 4919 Lubu Road TEL: 0211-254181

17. 図書館

British Council Library

Veritas House, Heroes Place Cairo Road
 TEL: 0211-228332 ~ 4/23602/24122 FAX: 0211-224122
 URL: www.britishcouncil.org
 E-mail: info@britishcouncil.org.zm
 貸し出し可能である。

United States Information Service

Veritas House, Heroes Place
 TEL: 0211-227993/38191/62385 FAX: 0211-226523

Library of University of Zambia (ザンビア大学図書館)

TEL: 0211-291777(ザンビア大学)
 ザンビア大学構内

City Library

Katondo Street

Alliance Francaise (アリアンセ・フランセーズ)

North Mead
 TEL: 0211-253467 FAX: 0211-254735
 フランス語の図書がある。

18. 警備会社

Mint-Master Security Zambia Ltd.

TEL: 0211-252630/254439/255640 FAX: 0211-255433

Armcor Security Ltd.

TEL: 0211-287751/287752 FAX: 0211-287815
 銃を所持している。

Securicor Zambia Ltd.

Plot 3144 Mukuwa Road Heavy Ind Area
 TEL: 0211-244832/244248/244418/246008/246009 FAX: 0211-246007
 URL: <http://www.g4s.com/zm.htm>
 E-mail: info@securicor.co.zm

Skills Development Center

TEL: 0211-226432

19. 日刊紙の購読

海外新聞普及(株)(OCS)

〒108-8701 東京都港区芝浦 2-9-13
 TEL: 03-5476-8131 FAX: 03-3453-8091 (月~金 9:00~17:00)
 URL: <http://www.ocs.co.jp>
 E-mail: subs@ocs.co.jp

20. 放送局

Multichoice マンダヒル・ショッピングモール内

TEL: 0211-263295/263543/263227/263273 (Kabulonga) 261616 (Woodlands) 261533
 URL: <http://www.multichoice.co.za/>
 E-mail: mczambia@zambia.multichoice.co.za

Kitwe: TEL: 02-221443 FAX: 02-221439

NHK ワールドプレミア・NHK ワールドを放送している放送局。扱っている代理店はルサカにないので、NHK ワールドホームページ <http://www.nhk-jn.co.jp/wp/>を参照し、デコーダー等を入手する必要がある。入手先は Game の近くにある。

21. 語学学校

Alliance Francaise de Lusaka

TEL: 0211-253467 FAX: 0211-254735
 フランス語学校。平日夜もしくは土曜午前のグループレッスン。プライベートレッスンも可能。昼のみ営業しているレストランの料理は美味。

22. 旅行代理店

Travel Shop

Great East Road (アーケイド内及びマンダヒル・ショッピングモール内)
 TEL: 0211-255559

	URL: http://www.travelshopzambia.com
	E-mail: tmarketing@microlink.zm
Addit Travel and Tours	
	TEL: 0211-228792-4/220469 FAX: 0211-220471
	E-mail: addit@zamnet.zm
Voyagers Travel & Tours	
	TEL: 0211-253082 ~ 4 FAX: 0211-253048
	URL: http://voyagerszambia.com/
	E-mail: travel@voyagers.com.zm
Travel Tech Ltd.	
	ICI Stand Showground
	TEL: 0211-253809/253823/246281 FAX: 0211-253852
	E-mail: travech@zamnet.zm

23.自動車販売会社 <新車など>

Marunouchi Motors LTD	
	TEL: 0211-221151/226380/223213/224768 FAX: 0211-223939
	取り扱いメーカー: 三菱
Toyota Zambia	
	Cairo Road NorthEnd
	TEL: 0211-229109/29113/228228/28229 FAX: 0211-222136/223846 Cell: 0977-862862
	E-mail: customer.care@toyotazambia.co.zm
	Copperbelt Toyota: Chingla Road, Kitwe TEL: 02 217571/217335 FAX: 217595
	取り扱いメーカー: トヨタ
Honda Zambia LTD.	
	Plot 697 Kalambo Road
	TEL: 0211-224580 ~ 4 FAX: 0211-225436
	E-mail: headoffice@honda.com.zm
	取り扱いメーカー: ホンダ

<中古車>

Hensons Used Car Sales & Rentals	
	マンダヒル・ショッピングモール近く
	TEL: 0211-222328 FAX: 0211-222347
Noor Motors Limited	
	Plot No.20958 Kafue Road, Makeni
	TEL: 0211-854646
	E-mail: info@noormotors.com
	URL: http://noormotors.com